

「原子カムラ」の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行

第7回フォーラム検討会議

逐語録

(木村) それでは第7回をはじめます。

まずは資料確認から始めていきたいと思います。まず、今日の議事次第があります(F7-0)。前回の議事録案がF7-1です。逐語録がF7-2です。次に、竹中君が配った「コミュニケーション・マニュアル」がF7-3です。次が「フォーラム計画書」です(F7-4)。最後に「フォーラム・マニュアル(案)」がF7-5です。

では、早速中身に入っていきたいと思います。今日は17時までを予定しています。やることとしては、議事録確認をしたら、最初に「コミュニケーション・マニュアル」と「ファシリテーターのためのマニュアル」の確認、検討をやります。これが前半です。

後半は、「フォーラム計画書」の検討を行ないたいと思います。この中で、次回の予備フォーラムの実施にあたって、どういうことをやるかということもあわせて検討しておきたいと思います。

さらに、フォーラム参加者決定における検討。まだ応募期間中ではあるのですが、私の認識している範囲で、専門家のほうは20名の参加希望が来ています。一方、市民のほうは今のところ10名に足りていないという状態ですので、その足りていない部分をどのように補填するかということを少し検討しておきたいと思います。

予想と逆転したので、あれって思ったのですけどね。専門家は遠くからも応募があったり。来年度は予算縮小の波を受けているので、遠くから来る人はどうしようかなと悩んでいるところではあるのですが、なるべく公平な形で選んでいきたいと思っています。

後でも話しますが、来年度のフォーラムは、首都圏に住む人たちには謝金しか出ないのだけれども、遠くから来る人にはプラス旅費が出るので、それで公平性が大丈夫なのかという問題もあります。逆に、遠くから来るその時間を旅費だけで払っているということで、それも不公平ではないかとか、いろいろ考えはあるのですが、その辺りの議論も、第9回のフォーラム参加者確定のときに少しさせてもらうことになるかと思うので、よろしくをお願いします。

ということで、今日は足りなくなるかもしれない部分、特に市民側のフォローアップをどうするかについて少し検討したいと思っていますので、よろしくをお願いします。

0. 議事録確認

(木村) 最初に議事録確認ですけれども、今日も内容が盛りだくさんですので、読むのは控えることにします。

前回の議論の内容は、コミュニケーション・マニュアルについて整理をしたというのが1点。後半は、フォーラム計画書についてディスカッションをしました。今日は、その辺りについて、さらに検討を進めていくということになります。

議論を進めていく中で、必要であれば議事録、逐語録を参照していただければと思います。内容については、すでにメールで送っていますので、もし気づいたところがありましたら、今日の最後までに言っていただければと思います。

1. 「コミュニケーション・マニュアル」「ファシリテーターのためのマニュアル」の確認と検討

(木村) ということで、本題に入っていきたいと思います。最初に、前回の議論を受けて、コミュニケーション・マニュアルがどうなっていったかということをお話していきたいと思います。

お手元にありますので、そちらを見ていただければと思います。修正が必要な部分はその場で修正していきたいと思いますので、前にも映しています。

前回から変わったところをざっと説明をしたいと思います。

「はじめに」というところを書いたということ。

2 ページの「『話す』とは?・・・コミュニケーションルール」のところに少し言葉を加えたということ。

3 ページ以降の「『話す』ときのチェックリスト」の内容を、前回の議論を受けて修正したということになります。あとは、参考文献もつけました(5ページ)。

6 ページからは第2部、ファシリテーションルールの話が出ています。こちらは今日の後半に話していきます。

その前に、5 ページまでについて議論したいと思います。少し時間を取りたいと思いますので、読んでいただいて、不自然な点をメモしておいてください。では、10 分間時間をとりますので、よろしくお願ひします。

(資料に目を通す)

(木村) それでは、順不同で構いませんので、どんどん気づいたところをご指摘いただ

ければと思います。

—— 質問なのですけれども、前回聞きそびれて、私の中では持ち越しているのですが、3ページの〔概念〕の2つ目に、「辞書や教科書を用意したり」とありますが、「教科書」というのは取り方がいろいろあるのではないかなと思うのです。これは、話すテーマに対する教科書という意味ですよ。

(木村) たぶんそうです。textbookですよ。

(竹中) textbookです。

(木村) 元々は textbook と書いてあるので、たぶん、話すテーマのことが書いてある教科書です。教科書には言葉の定義がちゃんと書いてあるので、それを使いましょうということです。

—— 例えば、ここに埋立地の例がありますが、それに関するテキストということですね。最終処分場とはこういうものだとか、管理型処分場とはこういうものだ、ということが書いてあるものという意味ですよ。

(木村) そういう意味です。あくまでここでの教科書の使い方は、言葉の定義を確認しましょうという意味なので。

—— そんなにいろいろな種類があるとは考えなくていいということですね。

(木村) 定義としてはそうではないでしょうか。

でも、先端分野になればなるほど、いろいろな定義、いろいろな言葉づかいがある可能性があるんで、分野によってはかなり注意しないとイケないかもしれないですね。

—— でも、一般的にこういう言葉はこういうふうに使われる、と書いてある教科書ということですね。

(木村) そういうことです。

—— それと関連してになるのですが、〔論理〕の2つ目の四角に「インターネットや専門家」とあるこの「専門家」というのは、やはりそのテーマに即した専門家ですか。

(木村)　そうです。

—— その専門家を選ぶのは、このテーマを主催するところが選ぶということですか。それとも、それも話し合いで決めるのですか。

(木村)　Rennらの主張によれば、本来は話し合いに呼ぶ専門家も、参加者が話し合いで決めると。

—— 決める。まあ、そういう人たちがいたほうが話がスムーズに進むということですね。

—— 私も同じところが気になっていて、「専門家を準備しましょう」ということは、実際の会合にその専門家を招かないといけないのですか。

(木村)　はい。

—— 今回のフォーラムは原子力学会員と一般の方が参加者ですよ。原子力学会員が専門家だとすると、さらにもう1人専門家がいるということですよ。

(木村)　いや、今回は専門的な話をするわけではないので、専門家は要らないです。今回は講師なしでいくので。

—— 例えば、最終処分場をこの地域に作ろうという問題になったときに、話し合いが行なわれるときには、最終処分場のことや、ゴミのことや、廃棄物のことを分かっている専門家を呼んで、一緒に話し合いをしましょうということですよ。

(木村)　はい。その専門家は主催者が提供するのではなくて、せめて、ある程度の幅を持たせた専門家のリストを作って、参加者にこの中から選んでもらうと。リストが気に入らなければ、誰か推薦してくださいと。そういうプロセスをはさむといいですよ、という話が、実はファシリテーションルールのほうに出てくるのですよね。まあ、今回は出てこないのかな。

—— 要するに、合意するわけですね。

(木村)　そうです。誰を呼ぶか、についても合意したい。

—— なかなか難しいところですね。

—— 私は、選び方とか、どれにするかというところもきっと問題になるだろうと思うのです。

(木村) 今回作ったファシリテーションルールは、「その場で話し合うとき」のファシリテーターの話をしているのですよね。

(竹中) そうですね。

(木村) なので、「その場を作る」ファシリテーションは省いてしまったので、入っていないのですけど。

一般化を考えたら、そういう点も入れておいたほうがいいかもしれないですね。

—— [概念] のところで『わかりやすい』言葉で話しましょう」と書いてあるのだけでも、2ページ目の表の見出しの[概念]、[論理]、[規則]、[感情]という言葉は、あまり日常会話に登場してこない言葉なのですよ。

—— おっしゃるとおり。

—— [概念] なんて言われた途端に、何のことだろう？ と。

—— いきなり分かりにくい言葉が出てくるので。言っていることと書いてあることずいぶん印象が違って。

[概念] と言うけれども、例えば私が皆さんが何かをお話するときに、最初に「今日はゴミの埋め立ての問題についてお話をします」という、そのことだと思えるのですけれども。普通、それを[概念]とは言わないですよ。

(木村) 何と言いますか。

—— 何だろう。「話のテーマ」とか言うけど。

(木村) これはテーマではないのですよ。言葉の定義です。

—— いや、言葉の定義と書いてあるのだけれども、「今日はこのお話をします」ということではないのですか。

「埋立地とは」っていきなり言うかな？ まずは、「今日は埋立地の話をします」から入

と思うのですが。

(木村) それはその場で講演をする時の手順であって。ここに書いてあるのは、誰かと誰かが話し合う時のルールです。自分が話す時のルールなので、講演のルールではないのですよ。

だから、どういう順番で講演をしていきましょう、ではなくて、自分の情報を相手に伝えるときに、相手はどのような耳を持って聞くか、自分はどのようなことを意識して話すか。

そのときに、相手と自分で、「言葉の定義」がずれていることがよくありますよねと。例えば、「安全」という言葉の定義が、専門家と市民で違うときがよくある。専門家が「安全だ」と言っているけど、市民は同じ意味で安全と取っていないで、別の意味で「ああ、安全なのですね」と取る。すると、もうその時点で、表面上は合意しているのだけど実はギャップがある。そういうギャップをなくすためにどうしていくかという、そういう議論です。それが「概念」というところなのですけど。

だから、言っていることが高度なので、難しい言葉なのですけれども、これはもうラベルとして貼るしかないかなと思って貼っているというところもあります。何かもっといい言葉があればいいとは思っているのですよね。でも、なんとなく 2 字の漢字でいきたいというところもあり。

—— 日常会話で「概念」はあまり使わないですよ。まあ、学術的な議論ではもちろん出てくるけども。日常会話で「概念」と言われた途端、そこで思考が止まってしまう。

—— 英語では何と言っているのですか。concept ですか？

(木村) 以前も議論がありましたけど、この人たちの言葉だから、詩的な言葉ですよ。Therapeutic が「感情」ですよ。それも、ひとつの単語じゃなくて、いろいろな言い回しで言っているのです。

—— 確かに、いろいろな言い回しになっていましたね。「概念」、もう少し、誰でもすんなり頭に入ってくるような言葉がいいのですが。

—— Communicative speech でした。

(木村) それだけ聞いても分からないですよ。それで、意味を読むと、だいたいこんなことが書いてあるのです。これ以上は書けないですよ。

(竹中) そうですね。

—— [概念] のところのタイトルが **Communicative speech** なのですか。

(木村) そうです。私も引っかかるころではあるのですよね。ラベリングをしてはいるけど、何かもっといいのがあれば。でも、日本語ではないですよね。

(竹中) というか、日常で話すときには概念について話すことはそんなにないことじゃないですか。これは「話す」と書いていますけれども、基本的に市民参加の場で話すというのはどういうことか、ということなので。その前提を書いたほうがいいですか。

(木村) うーん。「はじめに」に一応「意見の違い、立場の違い、価値観の違いがあるときに、お互いにきちんと話し合うためのポイントをまとめています。」と書いてあるので。そういうことをここでも繰り返し前段に入れておいて、ちょっと小難しいけど頑張ってください、というくらいしかないかな。

やはり、これを読むだけだと難しいですか。同じことでも、たぶん前で講義みたいにプレゼンしてもらおうと、ああ、そういうことを言っているのかと分かるけど、これを読んだだけで理解しろというのは結構難しいですよね。

—— この 2 字熟語というか、あまりこういう固定的な言葉にせずに、少し文章的に書いたほうがいいのかも。

(木村) 文章的に書くと、その後のチェックリストが長くなってしまって、チェックリストっぽくなくなってしまうのですね。

フォーラムでも、この 4 つを分けながらお話をするようにしましょうというときに、ラベルが長くなると、会話が長くなってしまいます。

あとは、ある意味でラベリングをすると、よく分からないからこそ、その意味が統一されているかどうかを確認するという作業ができるのですが、なんとなく分かりやすい言葉でラベリングをしてしまうと、その分かりやすさのために、「ああ、こういうことでしょう」というイメージが先行してしまって、そのラベル自体をまともに考えてもらえなくなってしまうということもあるのです。だから、ラベルを統一させようと思ったら、小難しいくらいの方がいい場合もあります。

ただ、あまりにイメージとかけ離れているのもどうかなとも思うので。[概念] よりも [定義] のほうがいいのかも。

(竹中) 私は [定義] のほうが難しいと思います。

—— でも、Communicative から来ているのですよね。それを使うといいような気がするのですけれどもね。

(竹中) 英語を使うのはやはりよくないと思います。

—— いや、言葉を英語にきなさいということではなくて、コミュニケーションのイメージを日本語にしないと。「概念」というのは Communicative から離れているような気がするのですけれども。

(木村) この項目は、Communicative と書いてあるけれども、必ずしもコミュニケーションの話をしているわけではないのです。意味をちゃんと捉えてラベルをつけないといけませんので、Communicative に引っ張られると、全然違う意味になってしまう。

—— ただ、[概念] は何か違うような気がするのですよね。

(竹中) Communicative と概念は違うのかもしれないですけれども。

ここに書いてある「埋立地とはどういうものです」というお話は、[概念] とは違うということですか。

—— ちょっと違うような。

—— 要するに、先ほど私が言った「今日のお話のテーマ」という感じではないとしても、コミュニケーションする対象について、お互いの共有認識を作りましょうという話ではないのですか。今日は何のコミュニケーションをするのか。その概念が一致していないと何を話しているのか分からなくなるから、それを教科書や辞書で確認して、最初に共通認識を作りましょうというのが、Communicative speech の響き、

(木村) そう読めるのだけど、中身は[定義]なのです。だから、それを表に持ってくると、おかしいことになるのですよ。

—— いや[定義]なのですけど、要するに埋立地というものは、

(木村) いや、今聞きたいのは、[概念] という言葉に対する代替案です。これが難しいというのは分かるのですけど、決めないといけないわけですから、どうしたらいいですかという話です。私が持ち帰りますといたらたぶん変わらないので、変えるなら、代替案を出していただかないと。

(竹中) ちょっと違うのかなと思うのは、〔概念〕の話は「今日のテーマ」の話だけではなくて、話の途中で「ああ、違うな、ずれているな」と思ったときに、ちよくちよく出てくるのですよ。なので、最初だけの話ではないのです。

—— 本質的なところ？

(木村) いわゆる「認識のずれ」です。言葉に対する認識のずれを正さないといけない。

よく倫理の授業でも教えるのですが、言葉の定義がずれていると、倫理問題のようなものが起こっているように観測されるときがたまにあるので、そういうずれはちゃんと最初に排除しましょうねと。それは「概念のずれ」と教えているのですね。確か倫理のほうからとってきて〔概念〕にしているのですよ。

—— 結局のところ、認知されている本質的な部分のことを「概念」とおっしゃっているのですか。

(木村) 本質をどう捉えるかによりますけれども。本質が、どちらかといえばルールとか論理構成であれば〔論理〕の話です。〔概念〕はもっと点的なものです。つながりではなくて、その点（言葉）が何を言っているのかという話です。

—— 言葉の定義と書いてあるのだけれども、言葉といっても、〔論理〕でも言葉を使うし、〔規則〕でも言葉を使うし、〔感情〕でも言葉を使う。あらゆるところで言葉を使う。全ての言葉を最初に論ずるわけではないと思うのですよ。

だから、この事例にあるように、「埋立地とは」とか、そういう話し合いのメインテーマの定義や概念を、皆が確認できるようにしておきましょう。埋立地とはそもそもどういうものなのですかと。だから、一般的な概念ではなくて、コミュニケーションの対象になっている、話し合いの中心にあることについての話だと思うのだけど、どうなのでしょう。

(木村) ではないです。本当に単純な「言葉の定義」です。

—— そういわれると、言葉が出てこないのだけど。

(木村) 出てこないから、〔概念〕になっているのです。

—— ちょっといいですか。この表の中の〔概念〕〔論理〕〔規則〕〔感情〕というのは、これについて話し合うわけではないですよ。

(木村) ではないです。

—— 何人かの人が集まってひとつのことを話し合うと、それについていろいろな、要するに論理的な話から、感情の混ざってしまった話から、いろいろな範囲の話が飛び交うから、そこを整理するために〔概念〕〔論理〕みたいに表にしてあるわけですよ。

この〔概念〕〔論理〕〔規則〕〔感情〕という言葉について詰めていったら大変なことになるのだけど、そうではなくて、ルールとして、要するに記号のように仕分けするというか、コミュニケーションの道筋を整理するためにこのルールに立ち戻ろうとしたときに見るものとしては、一言で書いてあると分かりやすいと個人的には思うのですけれども。

だから、〔概念〕とか〔論理〕という言葉は、確かに日常会話で話す言葉ではないのだけれども、でも、この言葉をコミュニケーションするわけではないから、ルールとして、表として見るにはそんなに、あまり難しく考えていなかったのですけど。

—— そうか、だんだん分かってきた。要するに、「あなたが今話していることは、この4つの分類でいうと、どの話ですか？」ということですね。言葉の意味があなたと私と違いますね、みたいな話がときどきありますけど、それに〔概念〕という名前をつけていると。

(木村) そうです。

—— 言葉に対する概念が実は食い違っているのに、同じと思い込んで話していたと。例えば、「埋立地」と一言聞いたときに、私は住んでいるところが中央区だったから、昔の晴海の、ぱーっとゴミを埋め立てたあの埋立地をイメージする。

今だったら、福島で放射線のゴミがたくさん出てしまって、それを地中深くにどうやって埋めるんだという話もあって、そう考える人もいるだろうし。

だから、昔の晴海のイメージだと、広大な面積に汚いものをバサバサ置くだけ、みたいにイメージする人もいる。地層処分だったら、何重にもパッケージして、何百メートルも埋めるのが埋立地、専門家はそう思うかもしれない。

だから、そういうところがごちゃごちゃになったまま話してはいけないということですよ。

(木村) そうです。

—— そうすると、〔定義〕のほうがよくないですか。「要するにそれは〔定義〕の話だね」って。これは日常会話でもたまに使いますよね。

(木村) どうですか。

—— [概念] という言葉が、元々観念的だから。

—— 漠然としているから。

—— 私は、この表の左側の [概念] も [論理] も [規則] も [感情] も、この言葉だけ見ると、分かったような分からないような気がして、その隣に意味が書いてあって、ああ、そうかと少し分かるわけですよ。こういう部類はここに入るのかと。さらに事例があって。ああ、実際にこういうのがここに入るかと。右へ行くと、なんとなく自分の頭の中で整理がされるので、変な話、名前が [概念] だろうが [定義] だろうが、右に行かないと分からない。

だから右に行って、実際に話し合っ、そういう分類をしてみないと分からない。だから変な話、ここは記号でも何でもいいと思います。記号だと思えるのがいいというのは、賛成です。

—— 私は、いい案がないなら、別にここは A、B、C、D でもいいかなと思いました。

—— 記号のほうが先入観がなくなるから。[概念] とかいうと、その言葉に対して皆それぞれにイメージがあるから、かえって分かりにくいのかもかもしれない。

—— 今、本当に [概念] という言葉の定義でもめていますよね。

—— 記号のほうが、私はいいと思う。

(木村) ただ、記号だとあまりに重みがないので。

—— 普通の人はこちらをぱっと見ても分からないので、記号のように受け取って、右に行って文章を読んで、少し意味を整理するというか、そんな感じだと思います。

(木村) そういう意味では、上が空白になっていますけど、ちゃんと「ラベル」と書いておけばいいのか。

—— 私はもうラベルと書きましたよ。先ほど先生がラベルとおっしゃって、そうか、ラベルだなと思って。

だからラベルとおっしゃった時点で、ここに対してこんなに分からないのだったら、も

う A、B、C、D にしちゃえばいいのになとか思ったのです。

(木村) そう。だけど、ラベルが格好悪いとよくないですから。牛乳にしても、「北海道牛乳」とあれば、北海道から来ているに違いないという、そういうある程度狭められることはあるので。ピンポイントになったらまずいけど。

—— そう。A、B、C もいいのだけど、逆に、A って何だっけってなるかも。

—— 私、記号にしろと言っているわけじゃないですよ。そのくらいに考えればいいと言っただけで。

—— ただ、文章として、〔概念〕のところに「言葉の定義や概念を述べる」とありますよね。〔概念〕の中に「概念」という言葉が出てくるから、あれ、前の〔概念〕って何だったんだろう、ということになるのですよ。

〔感情〕も、「自分の中の意見や感情を述べる」、〔感情〕の説明をしているのに、「感情を述べる」となっているわけですよ。

—— でも、感情でものを言うことは多いですよ。だから、ここはあったほうが良いなと思います。

—— ないほうが良い、ではないのです。言葉の中にまた言葉が出てくるものだから、あれ？ って感じになると言ったのです。

(木村) それなので、この言葉を使うときは必ず〔鍵カッコ〕で使っているのですよ。

ただ、ラベルとして、〔概念〕よりは〔定義〕のほうが良いかもしれないというのは、私も思っていたところもあるので。どちらが良いですか。

(竹中) 「埋立地」といったときに、埋立地の定義はこうかもしれないけれども、「私はこういうイメージをしている」という話になったときは、定義より少し広い話をするわけじゃないですか。そういう意味で、結構広めの〔概念〕という言葉はここでは使っておいたほうが良いのかなと思います。

—— 〔定義〕だと、もっとぐっと限定されますよね。

(竹中) 狭いと思いますよね。

—— その「イメージ」というのは、4番目の〔感情〕のイメージとの違いは何になるのですか。

(木村) これは逆に、〔感情〕の話の中でそういうものが出てきたときに、その中に〔概念〕〔論理〕〔規則〕に含まれているところはないですかと、それを取り出していくツールです。

だから、5番の〔感情〕のチェックリストには、〔感情〕の話というのは何がどうなっているかよく分からないから、そこから〔概念〕〔論理〕〔規則〕の話を取り出して、できるだけ整理していくようにしましょうと書いてあるのです。

そのイメージが〔感情〕に基づくものなのか。それとも、そのイメージをちゃんと抽出して、それが共有できれば、それは〔概念〕に位置づけて、それ以外の部分は〔感情〕として扱いましょう。そんな話ですね。

それが本当は一番難しくて。最初に書いてある話ですよ。〔概念〕、〔論理〕、〔規則〕、〔感情〕の話は、できるだけ分けて話すようにしましょう。

—— できないですよ。

—— 私の先ほどの晴海の話は、まさにぐちゃぐちゃになっていると思います(笑)。「汚い」とか「いやな」とか。そういう感じですよ。そこをうまく交通整理していくと。

—— 普通は〔感情〕とセットで語る場合が多いから、それを分けるというと、相当高度なコミュニケーション技術ということになりますね。それを仕分けして話せる人というのは、そんなにいないですよ。

(木村) 100%は無理だけど、でも、今までほとんど意識していなかったのを10%でも20%でも意識していくと、少しずつ議論が展開できるのではないか。そういうことを提案しているわけですね。

—— そうですね。最近、人の話を聞くときに、いつも頭の中で4つの分類が出てきて、こっちだよ、こっちだよと分類するように努力しているんですけど。

(木村) すごいですね。

—— 今までの議論で、「イメージ」という言葉がたくさん使われていますよね。イメージという言葉がこの中のどこかに入れられたらどうかなど。

私は、「ラベル」というレベルでいえば、〔概念〕ではない気がしてきているのですよ。「言

葉の定義やイメージを述べる」だったら、すんなり入るのですよ。

—— イメージじゃないでしょう。

(木村) イメージから〔感情〕を抜かないといけないのですよ。

〔感情〕にイメージが入っていて、そこから共有できる部分は、〔概念〕〔論理〕〔規則〕のところに持っていくと。

—— 先ほどの発言の中から〔概念〕の部分だけ取ると、「晴海の最終処分場」というところですよ。

(木村) まあ、そうです。「臭い、汚い」は〔感情〕の部分。

—— 今まさにそれを考えていたのだけど、「晴海のゴミ捨て場は汚いですよね」というのはどちらになるのかな。

(木村) 〔感情〕かな。

—— 「事実」ではないですか。

—— ハエがブンブン飛ぶとか、それは事実ですよ。

—— 実際に行ってみれば、おっしゃるとおり、ハエがブンブン飛んでいるという意味では事実だけれども。

(木村) 今の話だと、「汚いですよね」は〔感情〕で。それが本当に〔感情〕として正しいかどうかは、〔論理〕の話の中で、「どこから先を汚いと定義するか」とか、そういう議論をしなければいけないのですよ。

—— 「ハエがいる」というのがそうですよね。

(木村) そう。ハエがいる、いないでやるなら。

—— ただ、ハエがいっぱい飛んでいるのは事実ですよ。

(木村) それは〔論理〕です。

—— ハエが飛んでいるのは事実（〔論理〕）だとして、ハエが飛んでいることが汚いのかどうかについては、実は何の情報もなくして。測定してみると、何かの条件をクリアしていいような気がするから、汚いというのは〔感情〕で。

（竹中） そこは〔概念〕の話で統一すればいいのですよ。「ハエが飛んでいるというのは汚いことだ」というのを皆が認めるかどうかというところを。

（木村） いや、「ハエが飛んでいるというのは汚いことだ」と定義するかどうかの話は、〔規則〕の話なのです。社会一般としてそういうルールにした。それがちゃんと公正になっているかどうかという議論です。

「結局そうはいいても、私はハエが飛んでいるところは嫌だ」というのが〔感情〕です。

—— 近所に埋立地は作ってほしくありませんとか、そういう話になっちゃうわけですね。

—— ハエは、このくらいの量なら衛生上まったく汚くない、というのがルール（〔規則〕）ですよ。

（木村） ルールです。で、このくらいだったら人間健康に影響はないですよというような科学的な根拠があれば、それは〔論理〕の話です。

—— 私は昔オーストラリアにいたのですよ。で、アボリジニと一緒にキャンプに入っただけです。昼食は肉を焼いて食べるのですよ。我々は、ハエが来たら追い払うのですが、アボリジニは、ハエがいようと食べる。別にハエなんて汚いと思わないのですよ。

皆さんは清潔なところで育っているから、ハエは不潔だと思うけど、向こうはなんとも思っていないのですよ。

—— 中国の料理屋で、テーブルの上をゴキブリが走っていても、誰も何も気にしない。日本人だと追っ払うでしょう。現地の人には全然気にもしない。それは〔定義〕？

（木村） それはどうですかね。〔感情〕だと思いますよ。

—— ハエがいっぱいいて。いやだな、というのはその次に起こるのですよね。

（木村） だからこれ（ハエを追う）は、「いやだな」という〔感情〕でやる行動でしょう

ね。

—— 埋立地で、そのくらいのことは皆さん我慢してくださいよと、こういう話になる。

(木村) そうなるし、我慢してくれということ自身が、ちゃんと公正なルールでできたかどうかというところに市民参加の余地があるということですね。

—— どの程度までだったら我慢できるか、というのはどこになるのですか。〔規則〕ですか。

(木村) 〔規則〕です。個人の中では「これじゃ我慢できない」「全然大丈夫でしょう」という〔感情〕があって。その中からどうやって規則化していくか、という議論をしていかなければならない。

—— 〔感情〕に仕分けされたら無視するというわけではないのですよね。〔感情〕に仕分けしても、それは尊重すると。

(木村) そうです。

—— 5 ページの、「その人の今までの経験などに基づいて違いがある」というのは、そのことを言っているわけですね。

(木村) だから、自分が〔定義〕のように思っていること自体を話し合ってみると、そもそも違って、どうしてなのかということ掘り下げていくと、結局自分の〔感情〕に行き着くと。ああ、ここがそもそも違うから、使っている〔定義〕が違うのか。観測事実の見方も違うのか。そういうところに気づいていけるといいですね、という話なのです。

—— それは、本人が気づくことが原則なのですね。

(木村) そうです。

—— 会話の中で、自分が気づかないと駄目なのですね。

(木村) たぶん自分が気づいていかないと、納得しないと思いますね。

—— だから、他のテーマで他の人と話をしたときにも、また同じことを繰り返すわけで

すね。コミュニケーションのルールが、要するに自分の中に育っていないというか。

(木村) そうです。でも、その物事が感情として本当に受け入れられないということが自分の中で分かって、(そのことが)皆に受け入れられないことも分かったけど、「それでも私は〔感情〕として駄目です」と言えれば、それはコミュニケーションなのです。

—— 生理的にいや、みたいな話ですね。

(木村) 生理的に無理と。いろいろ理屈をこねてたけど、結局はそこだと。

—— でも、それを理解して、皆さんで共有化するのはすごい難しいですよ。

—— すごい時間がかかりますね。

(木村) これをやれるのが理想ですよ、というのが Renn さんの話です。

—— 理想ですよ。

それに関連する質問をしてよろしいでしょうか。5 ページの〔感情〕の3つ目の四角の一番下の矢印に、「話題に関する事実を十分に知らなかったり、勘違いしている状態」とありますが、こういうことはよくあると思うのですよ。

私、竹中君に聞きたいのだけど、19日のワークショップのときに、結局講義の内容を皆さん全然理解していなくて、後で出てくる質問が、明らかに勘違いとか思い込みとか情報不足で出ていたではないですか。

(竹中) そうですね。この前の会議では、そういう質問に対してはファシリテーターの方が答えることが多かったのです。ファシリテーターよりも私のほうがよく知っているというのは若干ありつつも、そこは邪魔してはいけないかなと思って、あまり言わなかったりはしたのですが。

—— でも、ファシリテーターはそれをやってはいけないのですよね。

—— いけないです。

それで私は、その学生のワークショップが、やったこと自体はすごくよかったのですが、これで本当に参加した人の役に立ったかなと。要するに、間違った情報を訂正せずに帰ってしまっているわけですよ。こうなったときに、本当はファシリテーターがちゃんと訂正をするとか、そこがちゃんとフラットになるまでやらないといけないということです。

よね。

(木村) ファシリテーターがいるようなコミュニケーションの場を作れば、そうです。

—— 本来それはファシリテーターが発見して、「あなたの今のご意見には、最初に説明していただいた話に対する勘違いがあるようですから、そこは確認していただけますか」とか言って、軌道修正するのがファシリテーターの役割でしょうね。

—— それが 19 日にはまったくなかったのですよね。

(竹中) まあ、思うところはたくさんありましたけど。

—— 質問に対して、ファシリテーターが説明していたのですか。

—— ファシリテーターが説明しないまでも、専門家がいらっしゃるのだから、この部分はお願ひしますって振ればいいのに、それすらなかったから、結局誤解したままだったり、勘違いしたままで帰っているわけです。

—— 誤解や勘違いがあったら、それを発見して軌道修正すべきファシリテーターが、その役割を果たしていなかったと。

—— そうです。でもそうなる、そのときのファシリテーターというのは、ある程度そのテーマに関する専門知識を持っていないと、ここが間違っていると言えないですよ。

—— そう。分かっていないと。

—— 要するにそうだったのだと思います。このあいだの学生のワークショップのファシリテーターは、ファシリテーター自身が専門性がないから、言っている意見が間違っているということに気がつかずにそのまま進んでしまっているのだと思います。

(木村) だから、事実確認のときに、分からなければ分からないということを言わないと危ういのですよね。でも確かに、専門家不在だと、それ以上話は進まなくなりますね。

—— 「感情」の部分を強く持っている人は、事実確認をスキップして、早く自分の感情を言いたい。先走る傾向にはありますよね。

—— そうです。大きな誤解のもとにその感情が出ているのですけれども。これは、その場で、ファシリテーターが進行しながら、その誤解とか、少し意見が違いますねみたいなことをちゃんと修正していくことが大事ということなのですね。

(木村) そうです。

—— この最初の表は、コミュニケーションしていく過程で何度もここに戻って。

(木村) これを机の上に置いておきながら。

—— それでファシリテーターが、「最初に説明したことなのですからけれども、ちょっとこの表に立ち返って、今の話を整理してみたいと思います」と。「今のお話は、この分類でいうと、こちらのことをおっしゃっているのか。それともこちらなのか。それをご本人から考えていただけませんか」。

それで〔概念〕の話であれば、説明した方に確認をしてみてくださいとか。あるいは本で調べてみましょうとか。そういう話にもっていく。だから、何度も戻ったほうがいいですね。そうすると、だんだんこれが分かってくる。

(木村) 実際にやってみよう。

—— 実践の中で理解していくほうがいいですね。

—— 分かっているつもりでいても、なかなか実践で活かさないですよ。

—— 冷静に話して、やっとイメージがつかめてきましたよね。ある程度興奮していると、なかなか理解できないですよ。

—— 日本人はこういうのは苦手だから。特に日本人が苦手なところですよ。アメリカ人なんかは、もう小学校のころからこういうトレーニングを受けるから。

—— 実際にワークショップの場面なんかを思い起こすと、やはり生のコミュニケーションというのはどんどん流れていってしまうから、ちょっと待ってくださいってストップをかけないといけないということですね。

(木村) そうです。

私はインタビューをよくやりますけれども、そういうときはこういうことを頭の中に入

れておいて、相手がなぜそういうことを言っているのかというのを、ストップさせながら、「ちょっと待ってください。今言ったお話は、どういう意味でしょうか」「その言葉はどういう意味で使っていますか」というのを確認しながらでないと、できないのですよ。

だから、それが大人数の話し合いになっても、ちゃんとストップしながら、かつ和を乱さないようにやらないといけない。

だから、最初に、こういうこと（分類して話すこと）が話し合うときに大切だという共有認識がないと、実はできないのですよね。

—— ファシリテーターだけではなく、そこに参加する人にもその点を押さえておいてもらうと、話しやすいという感じですかね。

—— 資料の前に必ずこれをつけておいて。今日のルールとか（笑）。

—— 私なんかもまったく素人だから、下手にストップなんかかけたら、わーっと話したい人が、ストップかけられたこと自体に怒ってしまうので。

—— そうですね。それで口を出しすぎるとか言われるのですよ。

（木村） そう。だから、途中で遮ってしまうのはいけないのですよね。全部話し切ってから、ちゃんと確認をして、ほどこいてあげるといような話をしないと駄目なのだと思うのです。難しいけど。

—— テレビの討論番組で、NHKのアナウンサーとかは、話が長くなった人の話を途中でとめるのがうまいですね。

—— うまいですね。司会者が特にね。

—— 「お話の途中で申しわけありませんけども、今のお話はこれこれで、今こちらのほうに差し掛かっていますけれども、それはまた後でやりますから、この部分だけでちょっと」といような感じで。

—— 言われた人も、そんなにいやな感じがしませんよね。

—— そう。もうやめろ、なんて言われたらあれだけど。「その話はまた後でやりますから」と言って、たぶんもうふらない。

(笑)

—— [概念]に戻るのですが、「言葉の定義や」まではいいのですが、「概念を述べる」というと変な感じがするので、他の言葉を使うとしたら「イメージを述べる」と思ったのですが、もっと簡単に言うと、「言葉の定義や意味を述べる」でいいのではないかという感じがするのですよね。

(木村) そうしたら、ラベルを[意味]にしますか。

—— ラベルは[概念]でもいいです。

—— 私は[概念]でいいと思いますけど。

(木村) 中を「意味」にしますか。

—— ええ、中身のところを。

(木村) 「意味」というのはいい言葉だなと一瞬思ったのですが。

—— それで、先ほどのご指摘の通り、この表の空欄のところに、ぜひ「ラベル」と入れたほうが。

(木村) もう入れました。

—— それで、この「ラベル」に使った言葉にあまりこだわらずに、単なるラベルだと思って理解ください、と言ったほうがいいですね。

—— なるほど。「意味を述べる」にするわけですね。

—— そうです。「言葉の定義や言葉の意味を述べる」と。

(木村) では、その辺はそういうことにします。

他にございますか。「はじめに」も今読むと変な気が。これは疲れたときに書いたから。

(竹中) ほとんどチェックしていないので。

—— 『話す』ときのチェックリスト」というのは、「話すときの心掛け」みたいなものですよね。そうすると、5 ページの 2 つ目の四角の、「皆の前で自分の中の意見や感情を話す前に、まず、友達や同僚と話して、自分の中の意見や感情を整理しましょう」というのは、議論する前に友達や同僚と話しなさいといっているのですよね。

(木村) そうです。それが大切だと書かれています。

—— いや、大切だとは思っているのですが、やろうと思っても間に合わないときもありますよね。

—— 私たちが今 (いろいろな意見を) 言えるのは、いつも行き帰りで、散々こういうテーマで話をしているからで。それでやっと頭の中が少し整理できる。だから本当にこれは大切だと思います。

—— いや、大切なのですが、このチェックリストを見て、皆さん机の上にこれを置きましたというときには、もう会議は始まっているのですよね。

(木村) はい。始まっています。

—— いや、会議のメンバーではなくて、このテーマで自分の周りの人と少し話をしてみると、発言する内容が整理されて発言できるということですよ。

—— 私もそのことは理解をしています。だけど、

(木村) その時間がないということですよ。その時間がないときにどうするか対処方法が書いていない。ということですよ。

—— そうです。

(木村) 確かに書いていないのですよね。

—— 直前に、「こういう意見はどう思いますか」「それは違うと思いますよ」という会話ができるのだったら、これに相当するのかもしれませんが。

会議が始まって、もうディスカッションをしているのに、(友達や同僚に) 意見を聞けないですよ。

(木村) そういうときは、「今思いついたことですけど」とか「まだ整理はされていないんですけど」という前置きをしなければいけないのかもしれないですね。

—— 本当は、これができない場合は、自分で反芻するといいいのですよね。

よく私は、「あの人はハートからいきなり口に直結している」と言うことがあります。要するに、心の中で思ったことがいきなり口に直結していると。そうではなくて、ワンクッションおいたほうがいいよ、思ったことを一度大脳で整理してから口に持ってきたほうがいいよ、と言うことがあるのですけど。テレビの討論番組などを見ていると、直結している人のほうが多いですね。だから、この「友達や同僚と話して」というのは、ワンクッションになるのですよ。少なくとも相手の大脳を経由するから、「今の話、こういうところが抜けてない？」とか言ってもらえると、ああ、そうかと気づくことができる。

—— だから、明日とか、1時間後に議論するのなら、事前にそういうことができるし、それはものすごく価値があると思うのですが、もう始まっているようなときにはどうするか。

—— 事前に相手がいなときは、仕方がないから、自分で思ったことを言う前に、反芻してみるといいのですよね。

—— と書いたほうが、私はいいような気がするのです。

—— 反芻して、自分で心の中で言ってみて、それで相手が分かるかどうか検証する。だけど、普通はそういうことはあまりやらないですね。

—— もう興奮しちゃっているから。

—— 普通は口に直結するのですよね。

(木村) 特に、「感情」に関してはそうですね。

—— 意外と、そのほうが受けがいい場合もあるのですよね。

—— ああ、そうですね。

—— でも、言った後、しまったと思うこともあるのですよね。言いすぎたと。特に人の悪口なんかは。

—— 麻生さんなんて、直結している人ですよ。

—— 政治家もそうじゃない人もいて。安部さんは何度も反芻して入る人だと思いますよ。

—— 反芻している間に時間がかかるので、皆さんご存じないかもしれないですけど、昔の総理大臣の大平正芳さんは「あーうー」って言いますけど、あの間に頭の中で整理している。

—— 私は同じふるさとなのですよ。本人は、地元ではよくそう言っていました。「あーうー」というのは考えているんだよと。それで、英語で考えるのだそうです。で、日本語で話すと。

—— 英語のほうが論理的だとか、そういうことですか。

—— そうです。論理的なのだそうです。それで日本語でしゃべるのですよ。

—— 確かに反芻するというのもあるけど、私はむしろ、自分の中で反芻しても同じ答えばかりしか出てこないと思うので、やはり人と話して違う見方、違う意見を聞くことで、ああ、なるほど、こうよねって、ひとつ前進できるような気がしているので、これはすごく大事だよねと思っています。このあいだから、私たちの間では、2言目にはこれが出てきているのです。

—— これは残しておいていいと思いますよ。

(木村) 基本的には、Rennさんの本の中にはこういうことが書いてありました。

ただ、今の議論を整理すると、「そういう時間がないけれども自分の感情を話したいときには、せめて自分の中できちんと整理してから話すようにしましょう」くらいは書きましようか。

—— 「4つの原則に照らして整理してみると、相手によく理解できると思います」と。

(木村) [感情]の話だから、自分の中だけでやっていくと、どんどん渦巻いていって、余計面倒くさいことになるかもしれないので。

—— 感情のことを自分の中で整理すると、暗くなりますよね。

(木村) だからそういう意味では、人と話す時間がなくて意見と感情を整理できないときは、せめて自分で、〔感情〕の話の中に他の要素が入っていないかを見て、〔感情〕の話で先走らないようにするということですね。それは大切かもしれない。

—— 確かに、本当に心から直結して、感情をそのままむき出しにすると、後で自分自身もすごく後悔しますよね。

—— 石原伸晃さんが福島のことを「何とかサティアン」と言ったでしょう。それで人気がドーンと落ちたのですが、ものすごく本人は反省しているのですよ。

いいときはいいけど、悪いときはそうなるのですよね。取り返しがつかない。

—— そうなのです。1回発した言葉は回収できませんから。

(木村) それは1つ段を落として、矢印にして、追加しましょう。

では、他のところはいかがでしょうか。「はじめに」も、もう少し私たちが検討し直そうと思いますけど。

—— 赤字で消してあるところがありますよね。ここは何を言いたかったのかなど。それを聞きたいのですけど。

(木村) 「皆が納得できるルールをつくる話し合い」のためには、「方法論がいくつかあります」と書いてあるのですけれども、その方法論が具体的にはどこにも書いていないので、あるとかえってよくないと思って削ったのです。

—— ああ、そうなのですか。あるのだったらぜひ、と思ったものですから。

(木村) そうなのです。私もぜひほしいなと思ったのですが、どこにも書いていないということが判明したので。他の文献をあたればあるのかなあ。

—— もしあるなら、ぜひ知りたいですね。

(竹中) 適切なルールを使いましょうと書いてあるだけで、適切な手法の紹介はないです。

(木村) なので、これを書いておくとかえって不親切になるから、消したほうがいいか

など。

—— この先生は、あとで書こうと思って忘れたんじゃないの？

—— (笑) あるのだったら、参考になると思うのですよ。

(木村) 少し時間も押していますので、そろそろ次に移りたいと思います。コミュニケーションルールは、私たちのほうで少し調整をして、仕上げていきたいと思います。

次に、6 ページから先のファシリテーションルールを作ったのですけれども、これはどういうコンセプトで作ったのか、最初に簡単に説明してもらえますか。

(竹中) 先ほど言ったように、実際にグループで話し合いをしているときにファシリテーターがどういうことに注意すべきかというところに焦点を絞って、話をまとめました。ですから、場の設計や、Renn さんの本に書いてあった「公平性の確保」とか、そういうニュアンスは抜いてあります。

そういう意味では、コミュニケーションルールのほうとは違う参考文献を使っているの、前との関連性というのは結構除いてしまっています。〔概念〕〔論理〕〔規則〕〔感情〕をそれぞれの話を分けましょうとかは、こちらのファシリテーションルールのほうにはあまり入れていないのですが、もしかしたら入れたほうがいいのかなど思っているのですけれども。

こちらのほうは木村先生の添削を受けていないので、厳しめの目で見ただけだとありがたいです。

(木村) ということです。では、少しここでも時間をとりましょうか。10 分間時間をとりたいと思います。気づいたところを、何でも構いませんので、言っていただければと思います。では、少し時間をとります。

(資料に目を通す)

(木村) それではファシリテーションルールについて、意見をいただければと思います。

全般として、これはフラン・リースさんの書いたものを、黒田さんがほぼ直訳しているものですね。

(竹中) 直訳ですね。

(木村) なので、「田中さんはどのように思われますか」は、元々は「アレン、どうです

か」とかだったのですが、そういうところは彼に直してもらいました。が、ほぼそのまま書いてあるのだと思うのですが。

(竹中) いや、結構私が書き換えています。

(木村) まあ、そうしたらここについて、いろいろと意見をいただければと思います。

—— 7 ページに「中立の立場を意識しましょう」とありますよね。「意識する」だからいいのかもしれませんが、私はやはり「中立」というよりも、「公平」かなと思います。最近では、私たちの中では中立という言葉を使わないのです。中立なんてありえないと思うのです。だから、公平という言葉を使うようにしているのです。数年前までは中立と言っていたのですが。

だから、「中立を意識する」でいいのかもしれないけども、「公平」かなと思います。

(木村) 「公平な立場」にすると、もしかすると Renn さんのフェアネスの話が入りませんか。

(竹中) ファシリテーターに関しては、あまり公平性は議論はされていないです。

(木村) その場を作るときの公平性の議論ですか。

(竹中) その場を作るの公平性です。ファシリテーターの話はされていないので。

—— (Renn が言っているのは) 参加するメンバーとかの公平性のことですよね。

(木村) ここは「公平」にしましょう。そのほうがいいと思います。

他はいかがでしょうか。

—— 6 ページの「あなたの意見が言いにくい雰囲気がありますか」というのが、日本語としておかしい気がして。これはファシリテーターをやる人が読むわけですよね。そのときに、「あなたの意見が言いにくい雰囲気がありますか」となると、「ファシリテーターの意見が言いにくい」とも取れてしまうので。もう少しこなれた表現のほうがいいと思います。

—— 参加者が、ですよね。「意見の言いにくい雰囲気の人はいませんか」ですよね。

—— 「意見の言いにくい雰囲気がありませんか」だけでもいいですね。

(木村) 他はいかがでしょうか。

—— 7ページの「話し合いの最初に、自己紹介を行うことで、皆がリラックスできるため、話しやすい雰囲気をつくるのに有効です」と書いてあるのですけれども、自己紹介をしてくださいというと、結構長くなって、最初から重たい雰囲気になることもありますよね。

—— ありますね。おっしゃるとおりです。

—— だから、「短い」とか「簡単な」とか、そういうことを書いておくといいかな、とだけ思いましたけど。

—— 「手短な」。

—— 「一言」とか。

—— その一言が多くなるのですよね。

—— でも、そう言っておけば、1人は長くなっても、他の人は短くしてくださるので。

あと、同じページの4つ目の四角の矢印の2番目、「話されている内容に集中しましょう。聞いている間に、自分の意見を整理したくなりますが、我慢しましょう」というのは、聞いている間に自分の意見を整理して「話したくなる」のを我慢しましょう、なのですか。

(竹中) いや、その人の言うことに集中して、自分の考えを入れるなということなので、自分の頭を動かしてはいけないということです。

—— 聞くことだけに使うと。

—— なるほど。どういうことを言っているのかなと思ったので。聞くことに集中して、それを自分の中で自分の意見にするなということを行っているわけですね。

(竹中) そうですね。その人の話を整理するのはありなのですが、そこに自分なりの、こういう、何ていうんでしょう。

—— 分かります。やってしまいますよね。

—— やっっちゃうし、そういうことをしている間に、話の後半が聞こえていなかったり、そういうことが起こるということですよ。

—— 自分の頭を整理するためにね。人の意見なんて聞いていなくて。

—— 最初だけちらっと聞いて、「ああ、そうだ」と思ってしまう。

—— 自分の中で解釈してしまうと。

—— ということは、とても大切なことなので、もう少し分かりやすい言葉にしたほうがいいと思います。

(木村) 「自分の意見を整理したくなりますが」という意味がつかみにくいですよ。

—— だけど、後ろのほうを読むと、「整理しなければいけない」とか、「抜けていることがあるのではないか」とか、「勘違いしていることがあるのではないか」と書いてありますよね。そういうことは、聞いている間にメモしたり、整理しなければできないのだけれども。

だから、「自分の意見を」というところがいけないのですね。

—— その人の意見を整理することはいいけど、自分の意見は整理してはいけませんと。

—— そう。自分の意見ではなくて、その人の意見の中で、ああ、ここは勘違いがあるな、ここは抜けているなとか、そういうことは整理してもいいのでしょうね。確かに、何を「我慢しましょう」なのか分かりにくいですね。

—— 聞く以外に脳みそを使うなど (笑)。そういう意味なのでしょう。

(木村) 「聞く」というのは、相手の言っていることをちゃんと理解することなのですよ。

—— これはとても大事なことですよね。私なんか、途中で遮断して、入らなくなってくることがありますね。ああ、この人の言っていることはこういうことだな、と。その後はほとんど聞いていないということがあるから。「我慢して聞く」というのは大事なことです。

いろんな話し方があるから。最初のほうはちょっと変でも、終わりのほうに大事なことが出てきたりする場合がありますからね。

—— 延々とわけのわからないことを言っていて、だけど最後にいいことを言ったり。その最後の一言でよかったのに（笑）。

—— 2つ気になるところがあります。同じことを言っているのですけれども。6ページの第二段落に「ファシリテーターは話し合いについて、意見を言うことはありません」と書いてありますよね。一方、7ページの最初の四角に、「自分の意見は話さないようにしましょう」とあります。

「話さないようにしましょう」というのは、少しは話してもいいですよ、と言っているように聞こえるのですけど。

私は、「自分の意見を主張しないようにしなさい」とよく言われたのですよ。

6ページは「意見を言うことはありません」。ナッシングですよ。でも、「自分の意見を話さないようにしましょう」というのは、「話してはいけませんよ」とは言っていないのですよね。

（竹中） 「話してはいけません」ということを言いたいのですけど、全体的に柔らかく言葉を使っているのです。

そういうふうに（少しは話してもいいと）読めますか？ 「話さないようにしましょう」というのは、私は、駄目だと言われていると思ったのですけど。

—— 「自分の意見を主張しないようにしましょう」だったら分かるのですよ。

—— 私は、「話さないようにしましょう」は、ああ、話しちゃいけないんだなって、単純に受け取りましたけれども。

（木村） 意見は話さなくていいのですよね。進行はするし、相手が何を言おうとしているかを整理する、皆で共有していくというのはファシリテーターの仕事です。

そういう意味で、皆にちゃんと意見を共有するとか、そういうことはどこかに書いてありましたっけ。

（竹中） あまり具体的なステップを書いてある本ではないのですよね。そういう意味では、何をやるのかというステップごとにまとめたほうがいいかもしれません。

—— これは、英語では何と書いてあるのですか。

(竹中) 元の文章は分からないですけど。

でも、私の場合、「意見を主張しないようにしましょう」と言われたら、意見は言っていないのだと受け取りますね。そちらのほうが、「言ってもいい」と取られると思います。

—— でも、ファシリテーターの意見を聞きたいとよく言われるのですよね。意見が割れたときに、ファシリテーターはどうですかと。そのときに、私はありません、とは言えないのですよね。

—— それに関しては、後ろのほうに書いている部分がありますよね。9ページなのですが、「ファシリテーターに対して質問がなされたら、自ら答えるのではなく、他の人にその質問を投げかけてみましょう」と。

—— でも、それは質問でしょう。今の話は、意見を問われているのですよね。

(竹中) つまりそれは、聞いている方がファシリテーターの役割を誤解しているからであって、なので、7ページに「最初にファシリテーターの役割を皆に知ってもらうことが大事ですよ」ということは書いてあるのですよ。

—— 自分の意見は言っではいけないのですよね。

—— 意見は駄目です。

—— 立場は言っているのですか。

—— 立場はいいし、進行もちゃんと道筋をつけてしなければいけない。だから、それと意見とを混同してはいけない。

—— ファシリテーターは、質問されたとしても、自分の意見を言わない。mustで意見を出さないと決めてあるほうが明確だと思います。私はそうあるべきだと思う。

(木村) そうでしょうね。

—— 意見を言ってしまったらもう駄目で。

—— かなり誘導になる可能性がありますよね。

—— 皆味方を増やしたいから。ファシリテーターを味方に引きずりこもうと思って、そう言うのだろうけれども。例えば、ファシリテーターの考えを知っていたら、なおさらのことですよね。そういうときは、私は今日はファシリテーター役を務めていますから、私の意見は差し控えます、と明確に言ったほうが良いと思います。

—— では、ここの文章は、「自分の意見は話しません」とか、「出しません」とか言い切ったらどうですか。

—— 私はそのほうが良いと思うのですね。(6 ページには)「言うことはありません」と書いてあるわけですから。

—— 「言うことはありません」より、「言ってはならない」という言い方のほうが、もっとはっきりしますね。

—— 文章全体が柔らかく作っているから、せめて言い切りの形くらいでいいのではないかなと思うのですけど。

(木村) では、「自分の意見は言っははいけません」にしましょう。

そうすると、何をしたらいいのかということ、この下に書いたほうが良いですね。「意見を言っははいけません」とあると、何もしゃべれないと勘違いする人がいそうなので。

—— 意見ではなくて、「調整に徹することが大事です」とかね。

(木村) そういうことを、段を下げて、ここに書いてあげたほうが良いと思います。

—— 7 ページの一番下に、「話し合いの目標をわかりやすく明示しましょう。また、話し合いが目標から大きくそれはじめたら、修正しましょう」とありますけど、こういうことをそこに入れるとか。

(竹中) そうなのですよ。こういう項目を結構探したのですけれども、この本には、どういうことを気にするかということが書いてあって、どういうふうに進めるかみたいなのはあまり書いていなかったのです。付け足していくのだったら、他の本をあたってみるとか、そういうことをする必要はあるかなと思っています。そうですね、こういうことを入れてみるといいかもしれません。

(木村) 経験則で、こういうことをファシリテーションするといいいすみたいなのが
あれば、それをお聞きして、入れてもいいかと思えますけど。

—— 私が非常に感心したのは、言っている人の意見がものすごく難解で、私は正直言っ
て、何を言っているのか全然分からなかった。だけど、ファシリテーターの人はいい耳を
持っていて、しかも周りの人が分からなかったらろうということも分かっている、その人
の意見が終わった後、きちんと、今何々さんはこういうことをお話になりましたけど、こ
れについて、皆様のご意見はございませんか。こう言ってくれたわけです。それで初め
て、ああ、そういうことを話したのかと分かったのですね。

—— 翻訳してくれたのですね。

—— そう。翻訳。その人がすばらしいと思ったのは、先ほど「よく聞け」という話があ
りましたけど、まさによく聞いていて。しかも、他の人は分からなかったのだろうなとい
うことまで、ちゃんと場の雰囲気を読んで。それで翻訳をして説明してくれました。

「今、何々さんは非常に大事なお話をしてくださいました。これについて皆様のご意
見はございませんか」。実は、意見を聞いているわけではない。翻訳しているのだけど、翻
訳だけだと角が立つから、皆さんいかがですかと質問調にしている、実は翻訳しているだ
け。

—— 9ページの3番はそういうことを言っているわけですね。

—— 「わかりやすく見えるようにしましょう」。そうですね。

—— でも、これは「見える化」なんじゃないですか。

(木村) 私は、8ページの四角の2つ目だと思いますね。

—— 「わかりやすく言い換えてみましょう」。そうですね。

(木村) この「わかりやすく言い換えてみましょう」とかは、コミュニケーションルー
ルの話とも関連して書けるなと思って読んでいました。

—— 「わかりやすく言い換えてみましょう」というのが、私が今お話したとおり、ファ
シリテーターの一番重要で、一番難しい役回りだと思いますよ。これができる人は、そう
ざらにいないのですよ。

(木村) しかもそのときに、話されている内容を変えたり、付け加えたりしない。

—— そうですね。やっちゃいそうだけど (笑)。

(竹中) 相手がそう感じたら、駄目ですよ。

—— 「こうおっしゃいましたよね」と言ったら、本人から「違うよ。そんなこと言っていないよ」とか言われたらおしまいですからね。

—— だから今回のフォーラムで、参加者がファシリテーター役をやってみると、「言っていることが違います」と指摘されたりして、どこに誤解があるかというのが分かっていると。

—— それもいいことですよね。翻訳してみて、それが違っているとってもらえれば、そこでファシリテーターも含めて、勘違いが分かるから。

—— そうなのです。聞き流していくと、どこが違うのかが分かってこないですから。

—— そして、話した人のほうも、適切な表現でなかった可能性もありますからね。誤解して伝わるということは。

—— そうですよ。しゃべった人は、自分が思っているように皆にきちんと認識されている (伝わっている) と思ってしまう場合もありますよね。

—— 間にいろんな形容詞を付け加えてしゃべる人にかぎって、話が難しく。主語と述語が離れていると、本人も忘れちゃうことがある。

(木村) 最初に言っていたことと違うことを言っているとか。

—— そう、つながらないことが往々にしてあるから。

(木村) 全体として、これが使えそうかどうか、というところの観点はどうですか。細かすぎるとか、参加者にここまで言わなくてもいいとか、この辺はもう少し強調してほしいとか、そういう観点で何かありますか。

—— なんか、親切ですよ。

—— すぐに使えるな、と思いました。

—— 私は、コミュニケーションルールよりは、こちらのほうが分かりやすいですね。

—— 分かりやすかった。

—— すぐ使えそう。

—— すぐ使えるし、ああ、ここはできていないな、というところがいっぱいあった（笑）。

—— すぐ使えそうなのと、これを読んだら、できちゃうかもって気になりますね。できるわけないのに。

—— でも、よく見ていると、意外と主張しているファシリテーターが多いですよ。だから、これを本当に読ませたいですね。

（木村） では、今日出たご意見を踏まえて、もう少しこちらのほうで調整します。これについて、またどこかでお話できるような機会を取りたいと思いますので、そのときに再度皆さんにご意見をいただきたいと思います。

ということで、ちょうど 15 時になりましたので、前半はここまでにしたいと思います。10 分間休憩をとって、後半の話題に入りたいと思います。

2. 「フォーラム計画書」の検討

（木村） それでは後半を始めていきたいと思います。後半は、主に F7-4 を使って、フォーラム計画書の検討をしていきたいと思います。

この前の話を少しまとめて、スケジュール表みたいなものを作りました。少し説明したいと思います。

表の上にかかれていたことは、応募用紙に書いてある内容です。オリエンテーション・『原子カムラ』とはなんだろうか？、ここはもう確定で考えています。総合ファシリテーターは元気ネットの方 1 名。グループファシリテーターとしては 6 人ということでしょうか。3 グループなので 6 人になるのかと思います。ファシリテーターというのは、各グループであらかじめ決められた参加者にやっていただくということになります。

スケジュール表ですけれども、前日は直前の打ち合わせがあります。これはまだ特に何も考えていません。

開場は30分前から始めて、ここで受付をして、書類、謝金の手続き、名札の配布、あとはくじ引きをするということです。番号を持ってもらおうかなと思っています。この【必要なもの】は、この後書いていきたいと思いますので、飛ばします。

13時から始まりまして、50分間オリエンテーションです。総合ファシリテーターから始めてもらって、最初にフォーラムの趣旨説明が10分。これは私がやります。この中では、何を指すのかを明確に説明する。特に、フォーラムの進め方については柔軟であって、参加者の意見を尊重しながら、随時調整するというのを約束しておこうということです。

その後自己紹介で、30分とっています。1人30秒で、1分くらいになるのではないかなというような、そういう計画ですね。全部で20名いて、さらに我々も必要なところは自己紹介ということになりますので、このくらいかかるかと思います。名前、所属、自分の関心事、このフォーラムに何を期待するのかというのを簡単に話してもらって、社会的リアリティを共有するためのきっかけになるといいかなと思っているということです。この前の意見では、制限時間については、自分の前でタイマーが鳴ると時間が守りやすいかもしれないという意見が出ています。

自己紹介が終わった後に、フォーラムの進め方について、10分間神崎さんのほうから、全体の5回の説明が入ることになります。【必要なもの】もあとで少し調整をしておきたいと思います。

次に、13:50~14:50は講義で、コミュニケーション・マニュアルを使って説明するというので、これは私と竹中君で対応するという事です。

次にコーヒードリンクを20分取っています。コーヒードリンクが終わったときにはグループで座ってもらうので、このくじ引きは(開始前の)受付でやるということになります。1グループは6名から7名、あらかじめ3パターン分を考えておいて、誰がどこに行くというのは全部決めておきます。グループファシリテーターも交換する。あれ、これはどうなんだろう。固定のほうがいいのか。ここに関しても、少し後で検討させていただければと思います。

ブレイクが終わったらグループワークになります。時間を考えてみたら、20分かける3回くらいかなという感じです。時間配分に関しても、ご意見をいただければと思います。全体のテーマは『原子カムラ』とはなんだろうか? ということで、目的としては、各自で「原子カムラ」とは何かを考えてもらって、共有するという事。

3回のグループワークがあって、1回目は、各自が「原子カムラ」について思うこと、考えることをポストイットに書き出して、模造紙に貼る。ポストイットは市民と専門家で色分けする。話し合いはコミュニケーション・マニュアルに則るように心掛ける。

2回目は、1回目の思いや考えを、そのグループに残っている人が2名程度いるはずなので、その人が簡単に解説した上で、さらに思い、考えを追加していくということです。

3回目は、出てきている思いや考えを整理する。似ている思いや考えをグループ化し、なぜそのようなグループが出てきたのか、また、それぞれの関係性を考えてもらう。「原子カムラ」とは何かについて、発表することをまとめてもらう。

ということになります。なんとなくこんなイメージで、3回のグループワークを組み立ててみました。

—— 専門家と市民は、ミクスチャーなんでしたっけ。

(木村) そうです。今日はまだくじ引きの表はないのですが、そのように考えています。

ファシリテーターが中心になって話し合う。ファシリテーターというのは、参加者の中から指名された人ですね。グループファシリテーターは基本的にサポートに徹するということです。

思いや考えの見える化が難しい。分類化をサポートするために何か軸を考えておく必要があるのではないかという意見が前回出ています。

あとは、お互いに名前を積極的に呼ぶようにするとか、まずはいろいろな人と話をしてみること、短い時間ではあるのだけれども、3回のグループワークを回して、どういった人たちがいるのかということを知るような機会として、一応セットしています。

—— ネームカードは用意するのですか。

(木村) ネームカードは用意します。

—— では、名前は分かるわけですね。

(木村) その後、30分間を取って、「原子カムラ」について思うこと、考えることの全体共有をしたいと思います。10分間かける3回で、1グループの持ち時間が10分。発表は5分から7分ぐらいで、残りの時間を質問時間にしたいと思います。

—— これは、その前のグループワークの発表ですね。

(木村) そういうことです。そうですね、そこが明確になっていないですね。

できるだけ参加者同士で質問できるようにサポートする。これはグループファシリテーターよりは総合ファシリテーターがやることになるかもしれないですけども、できるだけ参加者同士の質問を誘起するように、どうにかできないかなと思っています。ここがいつも難しいのですよね。ここについても、何かアイディアがあればほしいと思っています。

最後に10分とって、まとめと次回について、全体で、次回何をするのか、どう進めるの

かをここで決めたいというような話がありましたので、これを10分間とっています。

その後、懇親会に移るということになります。

次の3ページ目にいきますと、当日の会場レイアウトをどうするかとか書いてありますがけれども、まずはここまでの部分、進め方とか、そういうことについて意見をいただいきたいと思います。

—— 場所としては、どのくらいの広さですか。

(木村) 場所は、あそこの会議室です。

—— あそこですか。

(木村) もう日時が決まっているので、5回分予約しておいたほうがいいと思います。日程がずれてしまっはまずいので。

—— はい。

—— マイクにクエスチョンマークがあるということは、マイクは要らないんじゃないかということですか。

(木村) どうかnaと思って。マイクが必要になると、予算が変わるでしょう。

—— あのスペースだったら要らないと思いますけど。

(木村) そうなのです。だから、どうしようかなと。どういうレイアウトにするかにもよると思いますし。声を張ってしゃべってください、というのも、どうかna思ったりして。

—— 読んでいて分からなかったのですけれども、前回、1人で見える化とファシリテーションの支援は難しいという意見がありましたよね。結局グループファシリテーターは2人ということによろしいですか。

(木村) そうです。だから2人ずつつけられるように、全部で6人ということですよ。

—— でも、参加者がグループのファシリテーターをやるわけで、私たちはサブですよ。

(木村) サブです。だからグループファシリテーターという名前は、分かりにくいかもしれないですね。

ファシリテーター(参加者)と、サブファシリテーター(元気ネット)にしましょう。

— では、サブファシリテーターが2人ずつつくと。

(木村) はい。

— サブ2人は多いですね。

(木村) ただ、ファシリテーターがいきなりできるかどうか分からないので。

— そうですね。だから、できないときにはアドバイスしてあげる必要がありますよね。

(木村) 他はどうでしょうか。

— 前回の話し合いで、自己紹介で所属を話すとありましたが、かなり前の議論で、そういうことを話してしまうと、立場というものが発生するのではないかという話がありました。そこら辺について議論してはいかがでしょうか。

(木村) まあ、記録するときは、職業の話のところは全カットになるのですが。

まあ、30秒だしな、というのもあるんですね。逆に、市民から見たときに、どうでしょうか。専門家グループだということは分かるのですね。専門家グループだというのは分かった上で、職業は秘密です、というのはどうでしょうか。

— 何か、変な感じがしますけどね。

— 市民と専門家の違いは、どうやって分かるのですか。中では分からない？

(木村) そこも分からないようにしますか？

— いや、分かりますよね。話をしたら。

— すぐ分かりますよね。

— だって、ポストイットを色分けするのですよね。

(木村) そうなのです。分かるようにしないなら、くじ引きも分けられないし。あくまでもこのプロジェクトはムラの境界を越えることなので、市民だけで話し合っても仕方がない。必ずセットで話し合わないといけないとなると、ある意味最初にレッテルを貼ってしまってから、そのレッテルが自然な形ではがれていくにはどうすればいいのか、というほうが研究成果としては適うかなとは思っているのですね。

— では、何々大学は言わないで、「大学教授です」とか、少しぼかしていうようにするのはどうですか。

— 「会社員です」とか。

(木村) それは、どうやって統一させればいいのでしょうか。

— 統一しなくてもいいと思いますけど、例えば「その程度でいいです」ということを最初に言うとか。あるいは、「議事録には載せませんが、おっしゃりたい方は企業名をおっしゃってくださいなくても構いません」とか。自由にしたらいいんじゃないですか。

— ネームカードは名前だけなのですか。所属とかは書かないのですか。

(木村) 自己紹介の方法もいろいろありますよね。ネームカードは名前だけで、紙にいろいろ書いてもらって、それを見せながら話すというのもありだし。

— そのほうが、1回聞くよりは印象に残りますよね。

— A4の紙を4分割にしてやればいいのかと思います。

— 4分割で、名前と、所属と、

— 名前と、所属じゃなくて職業とか。主婦だったら主婦でもいいわけですし。

— 会社員とか。教員とか。

— 秘密です、でもいいですよ。

— 無職でもいいし。

(木村) 職業にしますか。職業だったらいいですよ。職場になってくると、危ないけど。

—— 関心事も、その4分割の中に書いてもらうほうがいいかも。

—— ネコとか。

—— 怖い顔している人が、「花」とか(笑)。

(木村) 4分割して、上から名前、職業、関心事。あとは一言でしょうか。

—— それを見せながら話したほうが印象に残りますよね。だって、20人するわけですよ。最初にした人のは忘れちゃいますよね、きっと。

—— 「フォーラムに何を期待するか」というのは？

—— それは、言葉で言ってもらおうと。

—— 一言というのは、どういう内容ですか。

(木村) ああ、一言か。でも、何を期待するか、はここには書けないですよ。

—— ちょっと書ききれないですね。

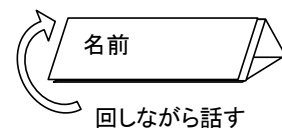
(木村) 4分割…、3分割は(折るのが)大変ですよ。

—— まあ、いいんじゃないですか、3分割で。

—— いやいや、4分割にして、3つ書いてもらって、こうやって折って、一番下は見えないのですよ(三角形にする)。

(木村) ああ、それで、くるくる回しながら話すと。

名前
職業
関心事



—— そう。それで、しばらく自分の席の前に名前の部分が見えるようにして置いてもら
うと、名前と顔がだいたい一致するではないですか。それで、グループワークで移動する
段階になったら、もうなくてもいいし。

—— 名札もあるけれども、最初は少し大きく書いたものを見られると。

—— それを見せながら、「〇〇です。〇〇で働いています。花に関心があります。」でい
いと思うのです。

—— それに加えて、ネームカードもあると。

—— ネームカードは胸に貼っておくとか、提げておけば、移動した後でも誰だか分かる
から。

—— 貼っておくほうがいいですよ。提げると机の下に埋もれてしまうので。でも、女
性は貼るのは嫌がるのですよね。

(木村) 私もつい最近インタビューをやりましたけど、首からかける名札を使ったので
すが、そういうのが気になる人はひもを結んで短くしてくれるのですが、あまり気にし
ない人は長いまま提げていて、机に隠れて見えなくて、誰だったかなとなったりする
ので(笑)。だから、最初からひもが短いタイプにするか、

—— はさむものとか。

(木村) 安全ピンのものは駄目ですよ。

—— 刺したくないものがあるのですよね。シールも貼りたくないとか。

(木村) そうなのですよ。

—— クリップではさむ名札が、元気ネットであちこちで使った残りがありませんでし
た？ 私、何枚かは持っているけど。

(木村) 首からかけるのだったらいっぱいあるのですけどね。

—— 安全ピンではなくて、クリップがついているものがあるのです。

(木村) もっといいものがあればいいのですけどね。帽子をかぶるとか。

—— はちまきとか(笑)。

(木村) でも、終わって回収した後に、(髪が)ぺったんこになって(笑)。まあ、ネームプレートは、何か適切なものを探すことにしましょう。

他はいかがでしょうか。

—— ポストイットの色を市民と専門家と分けて書いてもらうという話が前回出ましたよね。2回目も同じ色で、前のポストイットを見ながら、またそこに足していくと。

(木村) そうです。

—— 3回目のときには、今度は同じ1色で、それを見てどう思ったかというのを出す？

(木村) 私のイメージでは、それは色は関係なく、そのままポストイットを移動して分類して、これはこんなグループ、これはこんなグループみたいな名前をつけてもらう。それこそラベルをつけてもらって。それで、どうしてそうなのか、というのを話し合ってもらったり。この人たちの意見とこの人たちの意見の関連性とか、どうしてこんな差が出てくるのだろうかとか、そういうのを話してもらってもらおうかと考えています。

—— 3回目に。

(木村) 3回目に。最後にその結果を、私たちはこんな感じではないかと分けてみました。こういうところに差が出てくるのではないかなと思います。というのを発表で共有しようかなと思うのですね。

—— ということは、話し合いで「原子カムラ」というのは結局こういうことだよ、まで行き着かなくてもいいのですね。

(木村) 行き着かなくてもいいです。

—— ポストイットは1人1枚？

(木村) 何枚でも。思いつくだけポストイットで貼ってもらって、次(2回目)でも、出

てないといったら、どんどん貼っていってもらって、ということです。

—— それで、2回目に移動してきたときに、前のグループで出た意見を瞬時にしているのを見るのは大変だと思うのです。まあ、簡単に解説があるとは書いてありますけど。

そのときに本当は、例えばマイナスのイメージ、プラスのイメージ、その他、というように分けてあるほうが、見やすいし、そこに意見を足していけると思うのですよね。

それは、無理にしないほうがいいですか。

(木村) 最初はしないほうがいいかなと思ったのですが、20分しかないので、あまりできないですね。

—— 最初からある程度、そのグループ分けのイメージをサブファシリテーターが持っていれば、貼る時点で分けながら貼ることもできますから。

—— 私は、模造紙に(分類を)書かないまでも、模造紙を十字に4つに分けて、こういう意見はここ、こういう意見はここ、と自分の頭の中では思っていて、出た意見はここだな、ここだなと分けて、動くときにその分類をしてあげる。

次に来た人が全部を読むのは時間がかかるかなと思うのですよね。

(木村) ただ、それをやると、誘導になるかなとも思うのです。

—— そうなのです。前回まではそうすると面白いなと実は思っていたのですが、しないほうがいいのか、どうなのか。

—— 私は、せっかく専門家と市民と色分けをしたので、2回目までは色分けぐらいでいいと思うのです。市民はきっと専門家のほうを見るし、専門家は市民のほうを見るのですよ。全部は読めなくてもそういう感じで見てもらって、3回目のときによく読んでもらって、分けていくというほうがいいかなと思うのですが。

(木村) 組分けを考えると、どう頑張っても、1回目から2回目に移動するときに、専門家と市民が少なくとも1人ずつは残るのですよ。

—— 「2名程度がいるはず」というのは、その人のことですか。

(木村) はい。どんなに最適にしてもそうなるはずですね。

(竹中) 最適化してみないと、どうなるかまだ分からないですけど。

—— 全員が動くわけじゃなくて、残っている人がいるということですよ。

(竹中) 1名は絶対に残ります。

(木村) たぶん専門家も残るのですよね。あ、専門家は移動するのか？

(竹中) それは最適化してみないと分からないですね。

(木村) 必ず2名ではないかな。1~2名ですね。

—— この1、2名というのは、ファシリテーター（参加者）を除いてでしょう？

(木村) ファシリテーターをする人も毎回変わります。だから、ファシリテーターじゃない人が残る可能性もあります。

—— サブファシリテーターは？

(木村) サブファシリテーターは動きません。

—— 2名残るといのは、専門家と市民のそれぞれ1名ずつ残るといことなのですか。

—— 最大で、ということですよ。

(木村) 最大でも2名だったら、それが残るのです。

—— 最小は市民が残るのですよね。

(木村) それは分かりません。まだ最適化をやっていないので。というか、難しいみたいですね。

(竹中) 予想以上に。ぱぱっと書いてできる、みたいな話ではないです。私は東大の入試問題にすることを推薦しますね(笑)。

(木村) やはり専門家も1人残りますよ。絶対残る。そうじゃないとおかしい。

20人だから、(3人+3人)、(3人+4人)、(4人+3人)になって、ファシリテーターは4人のほうから出したいですね。そういうのを組み合わせて考えていくと、思ったより難しいのですよ。

—— 3回の組み合わせはどのくらいあるのですか。

(竹中) 対称性とか考えてないですけど、3万の4乗。

(木村) 3万の4乗通りの組み合わせがあると。何も考えなければですよ。これだけあると、プログラムを作っても簡単には出てこないね、という話で。だからもう、最適っぽいところで作っていくしかないですね。

—— これは毎回くじ引きをするのですか。

(竹中) 1回目のくじ引きで、3回分決めるのです。

—— 3回分同時に決めてしまうと。

—— それに3回分書いてあるのでしょうか。1回目はどこで、2回目はどこで、3回目はどこで、と。

(木村) そうです。A班、B班、C班とか書いてあるのです。

—— そこでファシリテーターが決まるわけね。

(竹中) いや、ファシリテーターも最初から決まっています。

(木村) くじに赤丸がついていたりして。あなたは1回目のファシリテーターです、2回目のファシリテーターです、とか。でもファシリテーターは全部で9人ですから、半分は当たるのですよね。9人って、大変ですね。

—— すごいと思いますよ。

(竹中) そういう意味では、資料に「グループ(サブ)ファシリテーターも交代する」と書いてありますが、ここは変わらないほうがいいですね。

—— サブは交代しない。

—— そこにいつづけて、イメージを固めて、分類もさっとできるようにしないと。

—— 3グループとも同じテーマでやるわけですね。

(木村) はい。それで、専門家と市民と1人ずつは、2回目に移るときに同じテーブルに残ると思うので、その2人が、「市民側はこんな意見が出ました」「専門家側はこんな意見が出ました」と話してから、いろいろな意見を出していくような感じかなと。

—— それはいいですね。意見だけ言おうと思って来ているのに、いろいろな役割をやらなないといけなくて。楽しくて、緊張して、いいかもしれない。

—— 1回目は今木村先生が言われたようなまとめの話がないから、20分フルに使える。2回目、3回目は最初にプレゼンがあるから、20分の中で少なくとも5分くらいはそれでつぶれますね。実質15分。7人15分というと、1人2分。

(木村) だから2回目は、「新たに追加がありませんか」と聞いて、とりあえず追加を各自出して、他ありませんか、を確認するくらいで終わると思います。

3回目は、もう意見出しではなくて、グルーピングですね。

—— 前に書いていても、2回目の場所でも同じ意見を書くのですか。

—— 書くのでしょう。2回目のグループで、自分が前のグループで書いた意見がなかったら、同じ意見でもいいから書いて、貼るということですよ。

(木村) そういうことです。

—— それがあったらそれは書かないで、別の意見があったら書くと。

—— そういうことですよね。

(木村) あとは、他の意見を見て、「ああ、こういうところがあったか。そういえばこの辺りも思いつくな」と新しいのを書くとか。

—— 本当は、同じ意見でも同じように書いて、同じところに貼ってもらったほうがいい

のですよね。同じように考えているポストイットが5枚あるのか、1枚なのか、という違いもあるから。同じ意見があったらもう書かないのではなくて、あっても書いて、重ねて貼るほうが。

—— 同じ意見であっても？

—— と思うのですが、どうですか。それはあまり役に立ちませんか。

—— そこに6枚、7枚きたら、ああ、皆そう思っているんだ、ということになりますよね。

—— 数を把握できるし。その6枚、7枚の中でも、少し違いがある可能性もありますよね。

—— それって意味がないですか。どうでしょうか。

—— そうすると、ある人は3つのグループで繰り返し同じことを言うことになるのかな。

—— そう。だからそれが意味があるのか。出ていない意見を書いたほうがいいのか。

—— 1人頭3分、2分、2分の時間しかないわけですよね。そこで、あれも言いたい、これも言いたいと考えて来た人が、同じことを繰り返すのか。2分しかないんだなあ。

—— それは少し気になるのですよね。

—— 今後にとって、同じ意見でも数があったほうがいいのか。あるいは書かないまでも、同じ意見ならそこに正の字を書くとか。

(木村) 賛成なら、シールを貼るとか。

—— 同じ意見なら、そこにいちいち書くよりはね。それはいいですね。

—— それなら、1枚あったら、もう書かなくていいわけですからね。

—— 参加者が番号を持っているのだったら、その番号を記入するとか。

—— 1番から20番まで、番号を書いていけばいいですよね。

—— シールを貼るほうが速いですよね。

(木村) シールは結構いいかもしれないですね。

—— そのシールも市民と専門家で色分けしておけばいいですよね。赤と青とか。

(木村) 反対意見があったときは、反対のシールなのですか。

—— ううん、そうは思わないときは、ポストイットにそれを書けばいいのですよ。

—— ああ、意見が違ったら全部書くと。

—— だけど、同じ意見であればシールを貼るだけだから。

—— そう。だから同じポストイットに市民も専門家もシールを何枚も貼ってくる可能性があるわけですよ。それは参考になりますよね。

—— それはいいかもしれないですね。

—— それはいいですね。同じ意見だと。

—— 数が把握できますからね。

—— シールのほうは、専門家と市民と変えるのですか。

—— 色分けする。ポストイットに青と赤のシールが5つずつ貼られるとか。

—— 市民のポストイットに専門家のシールが貼られることもあると。

(木村) スペースは足りるかな。

—— いやいや、大丈夫ですよ。小さいシールがありますから。かなり貼れますよ。別に重なってもいいんだから。

(木村) それで、3回目は、そういう結果を見て、思ったことを話すと。

—— それを模造紙の上で分類して、グループを作るとか、話の展開の流れを作るとかは、もうそのグループに任せると。

(木村) そうですね。

「話し合いはコミュニケーション・マニュアルに則るように心掛ける」と 1 回目を書いていますけど、むしろ 3 回目ですよ。それとも、全体に係るように書いておいたほうがいいですか。

—— そうですよ。

(木村) ここだけに書くとおかしくなるから。

—— 3回シャッフルすると、1つのグループには結局何人くらいの意見が反映されることになるのかな。

—— 20人。

—— そうか、3かける7、21人ということは、平均的に全員の意見が反映されると。まあ、現実には重複する可能性もあるわけですよ。3回目に、前にそのグループにいた人が戻ってくる可能性もありますよね。

—— ありますね。

(木村) できるだけそれがないように調整するのですが、難しいよね。

(竹中) 要求事項が結構多いのですよ。

(木村) そう。思ったよりも複雑なことを要求されているので。

どうですか。具体的にイメージがわいてきましたか。具体的なイメージがわからない場合、話し合いが足りないのですよね。

—— 1回やってみたいですよ。やってみたら全然できなかつたりして(笑)。

—— なんとなく、3つのグループのまとめが同じものになるような気がするのですが。要するに、最初に3つにチームを分けて、分けられたチームが議論を深めていくと、3つの色彩が別れる可能性が高いけれども、今の話だと、結局それぞれのグループのメンバーが、

同じメンバーで考えることになるから。

(竹中) でも、21人もきれいにいらなくて、せいぜい14人くらいだと思います。

しかも、3回目の議論は自分の意見を出すということではなくて、整理なので、そこで自分の意見は入らないとなると、実質的に10人分くらいになると思います。

2回目は同じ意見にシールを貼るということがメインになってきたりするので、一番色濃く反映されるのは1回目ということになるので、そういう意味では、3個の特色はある程度出てくることになると思いますけど、どうでしょう。

(木村) 整理の仕方は、3回目に集まったグループのメンバーによるので。同じ意見があっても、どういう見え方をするかというのは違うから、それはいいのではないかと思うのですよね。

—— そのときに、私たちサブファシリテーターがどこまで関与するかだと思うのですが、それはどうしたらいいのでしょうかね。

(木村) 基本的には放っておくのでしょうかね。

—— 放っておくんですよ、皆さん。

我慢できないかも。時間もないしどうするんだろうって、最後の5分でばっとやっつけてしまいそう。

(木村) 意見はしゃべってはいないけど、手が動く(笑)。

—— サブの人たちが一番意見を出したがる人だから(笑)。それを駄目だといっているのだから、これは大変ですね。

—— ファシリテーターがどのくらい仕切ってくれるかによって、ですよ。

—— 市民のほうから当たった人の中には、ファシリテーターという言葉を知らない人がたくさんいるかもしれないし。

(木村) それなので、前半にその講義をして、これから話し合いをするときに、どこかで皆さんに当たりますからねというお話をするわけです。

—— なかなか難しいですよ。前半に聞いたことをそのまますぐはできないですよ。

—— だから、そういう人だったら、やはりある程度、進行面も見える化面もサポートしないと、本当になかなかいかないかもしれない。

—— うまくいかないかもしれないですね。途中で、サジェスチョンしてくださいと言うのではないかと思いますけど。やっちゃいけないんだけども。

—— それをやっちゃいけないんですよ。

—— そこを明確にしておかないと。

(木村) 意見のサジェスチョンは駄目だと思います。こういう進行をしてはどうか、というような方法のサジェスチョンはいいと思います。

—— だから、こういう意見があるはずだけど、出ていないなというときに、それを引き出すような誘導尋問はいけないけれども。こういうご意見が出ていますけれども、他にありませんかと促すのは OK。

—— このように分類したほうが見やすいし、分かりやすいというのは、言葉でこのように分けたらどうですかというのは伝えてもいいけど、サブが手を動かして分けてはいけないわけでしょう。

—— サブファシリテーターが貼りかえてしまうとか。

(木村) それは駄目です。

—— それは駄目なのか。それはメンバーに任せないといけないわけですね。

(木村) なので、3回目はかなり具体的に書いているのです。

似ている思いや考えをグループ化して、ラベルを貼るとは書いていないですけど、まあラベルを作って、なぜこのようなグループが出てきたのかについて話し合いました。ここまで書いているので。これはもう、ファシリテーションするときの初歩じゃないですか。それで慣れてくださいね、ということなのですよ。

—— じゃあ、とにかく経験していただくと。

—— 第1回目は、そういう経験の場なんだ。

—— でも、万が一、ものすごく戸惑っているときに、同じ意見をまとめてこちら側に貼ったらどうですか、とか、そのくらいは言ってもいいのですね。

(木村) それはいいです。同じだと思われるものを集めて、動かしてみましようとか。そういうのはいい。

(竹中) 「こういうふうに分けられると思います」は駄目なのですよ。

(木村) 「こことここは似ているから集めましょう」は、もう意見が入ってしまう。これとこれは似ているから集めましょう、とこちらから提案したら駄目。だから、「近いものを集めていきましょう」と言うのはいいけど、近いかどうかは参加者に任せる。

—— どれとどれが近いと思うかはその人次第になるわけですね。

—— その人次第というか、そのグループで話し合ってもらって、どれが近いかというのを判断してもらおうと。

(木村) そうです。まったく動いていないからといって、あれとこれが近いよなあと思っても、意見や手を出しちゃ駄目。

—— サブファシリテーターが2人ずついるわけですから、お互いを見張っておいたほうがいいのかも。

—— でも、トータルで5回あるわけですから、最初は首をかしげることもあるかもしれないけど、辛抱するしかないのでしょうかね。

—— 一般市民の中には、急にファシリテーターをやれと言われたときに、「絶対にできません」と拒否する人もいるような気がするのです。そのときにどう対応するのですか。サブがサポートするのですか。それとも、

(木村) いや、やってもらいます。

—— 断固やってもらおう。

—— サブがいるから、分からないときはサブに聞いてくださいと言って、やってもらうのでしょね。

(木村) ファシリテーションしながら周りの人の意見を聞くというのが、実は一番学びの場にもなるので、ぜひやってくださいといわざるを得ない。

—— それは先生が最初の講義でおっしゃるのですよね。

(木村) 講義でも言うし、グループワークに入る前に余裕が 10 分間あるので、そのときにも言うつもりです。

いきなりファシリテーションをやれと言われて戸惑うかもしれないのですが、ファシリテーションすることによって、むしろ自分を外に出して、客観的に周りを見ることが出来ますから。というような話をしようかなと思っています。

—— しかも、それを 9 人経験できるというのは大きいですね。

(竹中) 最終的には全員ちゃんとあたるように。

(木村) そう。最終的には、全員が複数回やっているくらいにしたいですね。

—— 2 回以降も、ずっとこういうふうに 3 回に分けてやっていくのですか。

—— いや、それは違う。

—— 次回のやり方はそのときに、その都度決めると。

—— とりあえず今回は、一応全員にそういうことを経験してもらうために、3 つに分けてやるわけでしょう。

—— そうすると先生、ここで経験したことを発表する場所がないのだけど。

(木村) 経験したこと？

—— 「原子カムラ」について思うこと、考えることの全体共有というのは、ポストイットに書かれたことは、発表でお互い分かるわけですよ。

自分がファシリテーターになったときの感想。それから、(ファシリテーションのことを)

まったく分からない人がファシリテートしているのを周りの人がどのように思ったか。こういうふうに支えてあげた、もっとこうしてほしい。そういう感想は、別に発表しなくてもいいけど、どこかでやらないと。

(木村) なるほど。それはアンケートにするか、それとも、20人ぐらいだから、1人一言もらいましょうか。

—— 最後の部分で。

—— ファシリテーターをした人は、ファシリテートしたことを言えばいいし。しなかった人は、それを見ていてどうだったかとか、自分はどうだったかとか、何でもいいじゃないですか。きっとあらゆる感想があると思うのですが、それを短く言ってもらおう。

—— 最後10分しかとっていないけど、ここで1人一言ずつ感想を述べていただくというのが一番いいですね。

—— 1人30秒で。

—— そうですね。1人一言でやっていかないと長くなってしまうので。

—— 16:50からの「まとめと次回について」というのは、「まとめ」よりも「振り返りと次回について」のほうがいいと思います。

(木村) では、ここで振り返ってもらいますか。1人一言ずつ。

—— 次回何をするのかは、5分とかそのくらいで決めるということですか。

—— 全体で、次回何をするのか、どう進めるのか、ここで決めたい。ああ、なるほど。

(木村) はい。全部決まってそのスケジュールに乗っていくのではなくて、皆さんの意見を受けて、どのように進めるかを調整していきたいという話なのですが、どうしますか。

—— 意見を出し切れなかったから、次回もうちょっとしゃべらせてほしい、という意見はたくさん出るかもしれない。

(木村) そうしたら、(第1回の内容の) 継続でいいですね。

—— そうしたら次回は、初回みたいな移動ではなくて、もう少しじっくり話し合うグループワークをやってみるとか。

初回は、とりあえず全員を知ってもらおうというのが一番の目的ですね。だから動くのであって。2回目は動かなくてもいいから、2グループくらいに分かれるとか、3つでもいいけど、固定でやるとか。

—— あるいは、この日にまとまったグループのある(意見の)かたまりについて、中身を詰めたとか、そういう意見も出るでしょうね。

—— それが一番可能性としてありますよね。発表は聞くけど、それについて意見交換はしていないのだから。

—— 次は何をするのか皆で決めませんか、という問いかけ自体が斬新というか、してくれるところはなかなかないと思いますので、すごくいいと思います。

—— その問いかけをしたときには、今のようなご意見を、必ず誰かが言いますよね。

(木村) と思うのですよね。だから、1人一言ずつ振り返るときに、次回何をしたいかも聞きましょうか。振り返りも、項目を決めたほうがよくて。今日よかったこと、

—— 物足りなかったこと。次回何をしたいか。その3点話していただく。

(木村) 一言じゃなくなっちゃうけど。

—— そうしたら、また書けばいいのではないですか。書くと、話したいことが整理されるから、そう長くはならないですね。

—— それにしても、少し時間が足りないですね。

(木村) そうなのです。発表のところを縮めるしかないかもしれないですね。

—— 8分×3回とか。それで5分稼げる。

—— 初回は、この後懇親会と考えていますけど、場所は違うわけでしょう。そうすると、

17時がタイムリミットなのですか。

(木村) 会場は18時まではいけますけど。

—— もう少し時間を取ったほうがいいと思いますね。短すぎるような気がしますから。

(木村) ただ、最初からそのスケジュールでやるというのは誓約違反なので。

—— コーヒーブレイクを20分とっているところを15分にして、そこで5分稼ぎますよね。発表のところを8分かける3回で25分にしておいて、そうすると合計で10分稼ぐじゃないですか。その10分を最後につければ20分とれるから、そのくらいあればギリギリ間に合うのではないですか。

—— 16:40~17:00ということですね。

(木村) 本当にタイトですね。

—— 講義も大事だし。

—— たぶん、議論するというのも大事だけど、ファシリテーターのいい勉強になると思いますよ。

—— コミュニケーションとかファシリテーターのところの講義は重要だし。まあ、1回目だから仕方がないですね。

—— やはりこれは、進歩するところに価値があるんじゃないですかね。

—— 2回目は講義の時間が短くて、確認くらいになるので。第1回の結果を、サブを務めた人たちの振り返りをやって、2回目の冒頭で、何を注意したらいいかという話をすればいいわけですから。同じことを話しても仕方がないから。

(木村) そうですね。

—— それで、主催者側が話す時間でタイムオーバーというのは、厳しくしませんか。参加者の人たちが質問したりして長くなったというのは、参加者の人たちも仕方がないと思ってくれるけど、こちら側が話す内容でオーバーしているのは、自分たちの話す時間を削

られたという感じがあるので、そこはきちんとしたほうがいいと思います。

2回目からはある程度大丈夫かもしれないけど、初回はそこをきちっとして、皆さんが話す時間もありませんみたいな印象のほうがいいかな。

—— タイマーを目の前に（笑）。

—— ちょっと話が戻ってしまうのですがけれども、以前フォーラムの最初と最後にアンケートを取るとい話がありませんでしたっけ。

（木村） 最初はとらないです。最後に提出してもらうので、最初に配布資料と一緒に入れておくのだと思います。

—— なるほど。分かりました。

（木村） そのアンケートは向こう（社会調査グループ）で考えるみたいですが、向こうは学術的に信頼がどう、態度がどうという観点からのアンケートを作っていきますけれども、こちらとしては、フォーラムの進行に関するアンケートみたいなものはどこかで考えたほうがいいですよ。

—— 最後というのは、5回目ではなくて、毎回の最後ということですか。

（木村） そうです。毎回、今回どうでしたかというアンケートを行なう予定です。

フォーラムは、隔週で行ないますよね。それで、隔週（フォーラムとフォーラムの間）でミーティングを入れるスケジュールで今動いています。少なくともフォーラム期間中はそういうスケジュールで動くので、そのときには前回のアンケートでどういう意見が出てきたか、みたいなことを整理しながら検討することになると思います。あと、記録があがってくると思うので、それらを見ながら、次回のプログラムを作っていくのかなと思いますけどね。

特に最後の振り返りの部分、今回よかったこと、物足りなかったこと、次回何をしたいかというところは少しチェックをして、アンケートも整理をして、1回ずつスケジュール表を作るということになると思うのですよね。

—— そうすると、アンケートを書く時間というのは、プログラムには入っていないですよ。

（木村） アンケートを書く時間というのは、どうしているのですか。

—— 前は、会が終わった後にアンケートをお願いしますと言っていて、やはり回収率が悪いのですよ。皆、終わったらパッと帰ろうと思うから。

だから最近、最後にちょっと時間をとって、アンケートに記入をお願いしますと書いて書いていただいて、それから終わりにするようにしています。そうするとほぼ回収ができるので。

(木村) 本当はそうなのですよ。

—— だらだらと終えてしまうと、ざーっと帰ってしまうから。

—— ましてや時間オーバーしたりすると、アンケートを出さないで帰っちゃうから。

—— だから、ほんの 2 分でもいいのですよね。まだ時間ありますから、この間に書いてくださいという時間があれば。

(木村) では、振り返りは 16:55 までにしますか。タイトになりますけど。そうすれば、終了後にアンケート時間を 5 分取れます。

—— 終了前にアンケートを記入くださいと書いて、それから、それではこれで終わりにいたします。アンケートをお出しください。で終わったほうがいいと思います。

—— そうじゃないと、先に席を立っちゃうのですよ。

(木村) もうプログラムの中に書いておくと。

—— そうです。

—— それが 100%集めるコツだと、このあいだレクチャーを受けましたね。

—— 書き出してしまえば、最後まで書くのですよね。

—— そうなのですよ。だから本当に、主催者側が時間どおりに終わるほうへ持っていくことが大切です。

(木村) そうですね。これ、大丈夫かな。「振り返り」の時間が延びそう。

—— そう。延びそう。

—— 元気ネットさんは、実際に予定通りに終わらせていますか。

—— 最近はそうですよね。

—— 時間管理がうるさいから。

—— でも、次回に活かすアンケートですと言えば、書いてくださるのではないしょうか。

—— ここに参加する方たちは 17 時を過ぎても書いてくれますよ。私たちのワークショップは難しいけど。

(木村) 専門家は、意識が高くても書かないかもしれないな。

—— アンケートの提出がない方には謝金が出ませんか。

(笑)

—— それは効きますよ。

—— まあ、そこまで言わなくても、アンケートの記入もミッションのうちに入っていますと言えばね。

—— あとは、出入り口のところに 1 人立っていることですよ。

(木村) あとは、あまり不機嫌にさせないようにもしないといけないし。

まあ、初回は懇親会もあるので。全員が参加してくれるかどうかは分かりませんが。

—— アンケートは、かなり中身は重いのですか？

(木村) いや、フリー記述が多めの、1 枚紙くらいのアンケートになると思います。向こうでも話していて、毎回毎回すごい量のアンケートを取るというわけにはいかないのです。おそらく、結構こちら（検討会議）のアンケートと重なる部分が出てくるのではないかと

思っています。

—— 振り返りのところでたくさんしゃべれば、アンケートに書く中身は減るし。そこでしゃべれないと、いっぱい書く。こんな感じでしょうね。

—— 振り返りは短い時間で3つのことを聞いているので、「ここで簡単にお答えいただくのですが、お答えいただけない分はアンケートのほうにお願いします」と誘導するといいいのではないですか。

フォーラムは市民と専門家が10人、10人の20人ですよ。関係者は何人くらいになるのですか。

(木村) 関係者は、どうでしょう、10名見ておけば大丈夫だと思いますよ。

アンケート自体に、今回よかったこと、物足りなかったこと、次回何をしたいかを、振り返りの前に書いてもらって、それを提出してもらったらいいですか。まずアンケートに記入してもらって、その中で一番主張したい部分を一言ずつまとめて、最後に皆で共有しましょう。書いてもらったアンケートは、今日提出してもらいますと。

—— アンケート記入を先に持っていったほうがいいですね。振り返る前に。

(木村) そのほうが皆真面目に書きますよね。そうすれば振り返りのときに、そのアンケートの中から強調する部分を言えばいいし。

—— 自分の言いたいことが整理されますよね。

—— どの時間で書くのですか。

(木村) 振り返りの時間になったときに、「それではこれから振り返りの時間になりますけれども、まずはお手元のアンケートに、ご自分の意見を整理するつもりで記入してみてください」と書いてもらって。それだったら5分取ればいいですよ。5分取りますということで書いてもらって。「記入できましたか。その中で、1人一言ずつ、特に強調しておきたい部分をおっしゃってください」と回して行って、共有します。それで今日のまとめにしていけばいいかなと思います。

—— 今日よかったこと、物足りなかったこと、次回何をしたいかということがアンケートの中であって、その中でご自分が一番言いたいことを言っていただくと。

(木村) 言ってください。30秒ですと。

—— そうですね。3つ全部よりは、そのほうがいいのかも。

—— それならできますね。

—— それだったらアンケートの中に、ファシリテーター役を経験してどう思ったか、などがあったほうがいいですよ。

—— 感想ですか。

—— できたこと、できなかったこと。客観的に見てどうだったか。

—— 難しいかも。

—— そう、自分では分からないのですよね。

(木村) それで、ファシリテーターをやっていない人は、ファシリテーターに対して何か意見を言う、とかを入れたほうがいいですか。

—— そうそう。最初の講義の内容がまったくできていなかったとか(笑)。

—— 人から見たことを受け入れるということも、大切なこの内容ですからね。

—— そうなのって、客観的にものを見る訓練にはなるのですよ。

—— ファシリテーターに関しては2つあるわけですよ。ファシリテーターの人と、ファシリテーターを見る人と、2つ書くわけですね。

(木村) ファシリテーターをやった人は、ファシリテーターをやってみてどうだったかがあるけど、ファシリテーターをやっていない人は、ファシリテーターがどうだったかを書く。

—— そこにくれぐれもサブファシリテーターのコメントが載らないようにしないと。「関与しすぎ」とか。

—— 「いつのまにかポストイットが動いていた」とか。

(木村) サブファシリテーターについても聞いておきますか。

—— それは(入れなくて)いいですよ。

—— それは周りで見ている、あとで指摘していただければ。

—— 「進行等に対する」を入れたほうがいいのではないですか。「ファシリテーターに対する意見」だと、「嫌い!」とか(笑)。「ファシリテーターの進行等に対する意見」くらいのほうが。

(木村) まあ、聞き方はこちらで考えていきますけど。

—— 事務局に対する要望もあると思うのですよ。

(木村) そうですね、アンケートの中にはそういうものも入れておいて。その中で、特に最後に30秒で言っておきたいことを話してくださいと。

—— アンケートは事務局は見るけど、参加者は分からないわけだから、ご自分の感想として共有しておきたい部分、一番言いたいことを一言、と言えればいいと思います。

(木村) そうですね。進め方はこんな感じでよろしいでしょうか。

それでは後は、【必要なもの】はどうしますか。これはこちらで少し検討して、次回見ていただくほうがいいですか。今日、シールとかいろいろ出てきましたので、少しこちらのほうも持ち帰って具体的に詰めて、次回以降検討したいと思いますので、よろしくお願ひします。

あとはレイアウトですが、この辺を来週の予備フォーラムでやってみましょうか。

—— 机の配置で皆さんにお伺いしたいことがあるのですが、私は近いほうが好きなのですが、だからテーブルを2つくっつけたくらいの距離感が好きなのですが、それだと初対面では近すぎるとか、何か理論的なものはありますか。最初は少し遠目のほうがいいのか、そういうのはあるのですか。私は最初から近いほうが好きなのですが。

—— 模造紙を置くのにスペースが要りますよね。

—— 作業台みたいにするから、くっつけたほうがいいわけでしょう。

—— 模造紙をテーブルに置く？

—— そうするか、3グループぐらいだったら、ホワイトボードに模造紙を置くという手もありますけど。

(木村) ホワイトボードは1つしかないですよ。

—— あの会場には1つしかないから、外からレンタルで借りないと。

—— サイエンスコミュニケーション学会のときは、机をくっつけて、密接にやりますね。それで模造紙を置いてやっていきますけどね。

(木村) だから、模造紙を置ける程度の島を作って、でしょうか。

—— でも、7人でしょう。テーブル2つじゃ狭すぎない？

—— 私も狭いとは思っただけど、距離感を聞きたいなと思って。近すぎる？

—— サブファシリテーターはそのときどこにいるのですか。

—— テーブルです。

—— そうすると狭いですね。加えてもう2人いるわけでしょう。

—— 10人くらいですね。

—— そうか。10人だと2つじゃ狭いですね。

—— 次回は予備フォーラムでしょう。そこでやってみれば良いと思いますよ。

—— いや、何か理論みたいなのがあるかなと思って、聞いてみたのですよ。最初はあまり近くないほうが良いけど、後は近いほうが良いとか。最初からぐっと近いほうが良いとか。そういう理論的なものはあるのかなと思って。

—— 経験からはくっつけていますね。

(竹中) でも、そこはもう人の好みに近いですからね。

—— やはり好みですか。はい、すみません。では、次回やってみましょう。

(木村) ただ、狭くしても、離れたい人は、結局少し椅子をこうやって離してしましますからね。私も狭いところはあまり好きではないので、たまにやってしまうのです。

あとは、いつも気になるのが、横側（テーブルの短い辺がつながった側）に座る人は机の脚が邪魔になるのですよね。

—— 私たちは横側に座ればいいですよ。

—— そうですね。

(木村) やはり机を3つ並べるくらいですよ。

あとはレイアウトですが、20人なので、そんなに広い場所は要りませんね。

—— 会場全部を使う必要はないですよ。前のほうだけのほうがいいと思います。

(木村) 前のほうにして、端に荷物置き場とか、お茶置き場を設けたほうがいいですよ。

—— グループワークは3つの島でやるけれども、全体で共有するときは椅子だけ持ってきて前でやるという形式が、傘木さんの本には書いてありましたよね。場が変わると変化がありますよね。

(木村) 専門家はどちらかというところこういう機会に慣れていますが。どうでしょうか。

—— 移動するとその分必ずロスタイムがでますので、その場でもいいのではないのでしょうか。

(木村) 前半と後半でレイアウトは変えますか。前半も変えなくていいのかな。講義のときから島にしておいて。

—— そのほうが時間のロスがないですね。

(木村) そうですね。元気ネットさんがやられているのはそういうタイプですね。それでいいですか。

—— 最初にグループ分けの紙を配るわけ？

—— いや、最初は自由に座っていただいて、それで講義を受けて、コーヒードリンクのときにグループ分けをします。

(木村) それから、荷物置き場があると、そこに荷物を置いておいて、必要なものだけ持って行ってくださいとできるので、そのほうがいいかなと思うのですね。

—— 今回はそうしないと、移動が大変ですからね。

—— グループワークになったら、もう自分のものはほとんど要らないのだから、片付けていただいて、身動きがしやすいようにすると。

(木村) そのほうがいいですよ。その辺りも次回検討して、荷物置き場はここにしようとか、そういうのは見ましょう。

—— それで、20分でどの程度のことができるか、やってみましょうよ。

—— あの会場はトイレが1つしかないですよ。

(木村) 確かにトイレが1つしかないですね。

—— トイレは男女別々でしたよね。

(木村) 男女別です。

—— 女性側で10何人いるのですよね？ あ、女性は10人はいないのか。専門家側が。

(木村) 専門家はほとんど男性だと思います。まあ、見てみないと分からないですけど。市民のほうもどうなるか分からないですよ。開けてみたら全部女性だったら仕方がないから。

—— あの広さの会議室で、トイレが2つしかないっていうのもちょっと。

—— だから休憩時間に限らずに途中で利用してもらおうとか

(木村) そうですね。まあコーヒブレイクが15分あるので、頑張ってもらわなければならないですね。

ちなみに、これは次年度に向けての話ですけど、フォーラムは半日を全5回と、朝10時から16時半の全3回と、どちらが来やすいですか。

—— まあ、午後丸々というのは、1日どうしても空けますよね。

—— そのほうがいいかもしれない。

(木村) そうすれば3日間で済むので。

—— どちらにせよ、東京の人は別として、少し離れていけば1日つぶれますからね。

—— 午前中に何かやってからこれ、というわけにはいかないですからね。

—— どちらにしろつぶれるし。

それから、オリエンテーションとか講義をやっていると、実質1時間しか中身がないわけですね。1日にして、最初にレクチャーで、その後2時間3時間中身をやったほうが、密度は上がりますよね。

(木村) そんな気もしているのです。まあ、これは来年度フォーラムを再設計するときに出てくる話題なのですけど。今回、5回で計上したから5回にしたけど、3回くらいにして、そのほうが参加者も増えるかなという気もしないでもない。

—— 5回というのは負担ですよ。

(木村) 5回全部来いというよりは、3日間なのでというほうが来やすくなるかなという気がしたので。

—— 来やすいと思いますよ。

—— お昼をはさむので、皆さんと雑談する時間も取れますね。

(木村) お昼を入れると、学術的にはコントロールしにくくなるのですけどね。記録が取れないから。お昼のときにいろいろ話し合うではないですか。それをやめろというわけにもいかないの、それはやってくださいということになるのだけど、学術的にはお昼に何を話したかが実は重要だったりするのです。というのはあるのだけれども、でも実質を考えたら、そちらのほうが参加人数が増えるのだったら、少し学問的な質は落とすことは覚悟で、そうしたほうがいいのかなど思ったりもしました。

—— そのときは報酬は 5000 円なのですか。

(木村) いや、少し変わると思います。1 日になったら、8000 円とかでしょうね。2 万 4000 円だから、とんとんですよ。

—— 交通費が楽になりますよね。

(木村) そうです。交通費が楽になります。

(竹中) その代わりに、お昼ごはん代がちょっとかさむと。

(木村) 確かに。でも、オリジン弁当とかでいいですよ。500 円ぐらいで済みますから。

それはこちらからは支給できないと思うから、500 円ずつ回収して、誤差くらいは調整をして、という感じでしょうね。すみません、脱線しました。

では、来週の予備フォーラムは、特に配置の確認と、あとはグループワークですね。ポストイット、模造紙、シールくらいは用意したほうがいいですか。

—— 用意します。

(木村) では、それはお願いします。

ポストイットは何色がいいですか。

—— ピンクとブルーと黄色がありますけど、3 種類用意しましょうか。

—— 3 種類あると 3 種類使っちゃうから。

—— では 2 種類。何色にしましょうか。

—— 好みだけど、黒のマーカーで書くのだったら、ピンクや黄色のほうが見やすいですね。

—— では、ピンクと黄色にします。書き込むのは黒のサインペンですか。

—— マーカーがいいですね。

—— 太いのがあるのですよ。

(木村) それは私が持っていますので、それを使いましょう。

—— 裏移りの心配があるから、PROCKEY (プロッキー) とかがいいですね。

(木村) 裏移りしない水性マーカーですよ。それはうちの部屋にいっぱいあるので。

—— では、これは先生が用意すると。

マグネットは今回は要らないですか。

—— あったほうがいいかもしれない。最後の発表で使うでしょうし。

—— 模造紙は、発表用の小さい模造紙を 2 枚貼って準備します。先ほど大きさを見ていただいたので。

(木村) それは間接費から適当に出せますよね。よろしくお願いします。

—— では買いますか。

(木村) 買っておいても大丈夫でしょう。どうせ来年度使うから。

—— 重たいから、運ぶのが大変なのですよ。

(木村) そう。だから全体は事務所に置いておいて、その中から必要な分だけ抜き出して持っていくようにすればいいと思います。

—— はい。

(木村) あとは具体的には、講義の部分ではなくて、グループワークの部分でロールプレイしてみましようか。この時間で回るのかとかを検証してみましよう。

—— 竹中さんがファシリテーターをしてみるとか。

(木村) そう。慣れていない人がやらないといけないから。

—— あとは、私たちは参加者になってやってみる。で、2人はサブをやってみるとか。

—— いじわるな発言をしてみるとか。

—— そう。長く発言してみるとか。

(木村) 3人ファシリテーターができますから。誰かやりたい方いますか。
ファシリテーターは、竹中君と、神崎さんと、私がやってみましようか。

—— よく読んでみます。

(木村) いや、読んできちゃ駄目です。慣れていない人がやるのですから。そうか、でも講義は受けた後だから。

—— そう。下手なファシリテーションをして、あとで言っていた方がいいわけですね。

(木村) とうか、下手なファシリテーションをしている人を、いかにサブがフォローするかという訓練ですから。

—— いかに誘導せずに、しかしお支えするかと。

(木村) そういう訓練なので。私は出まくる専門家ファシリテーターをやりますから。そんな感じでやってみましよう。そうするとだいたい2時間くらいですよ。最初に1時間くらい配置などを見て、2時間くらい実際にやってみましよう。2時間も要らないかな。3回も回せないか。そんなに人がいないか。

—— でも、それぞれの役割をやってみるのもいいですよ。市民をやってみるとか、サ

ブファシリテーターをやってみるとか。

(木村) では、それを回してやってみましょうか。

—— 配置のほうはそんなに時間かからないのではないですか。

(木村) そうですね。

それを一通りやって、残りの時間でファシリテーションマニュアルなどの検討の継続をする、くらいがよろしいでしょうか。

—— 配置の記録のために、カメラを持ってきたほうがいいかもしれないですね。

—— ではカメラを持っていきます。

—— ばっちりできたら、写真を撮っておけばいいわけですから。

(木村) 確かに。そうすれば案内文にも出せるし。では、次回の予備フォーラムはそうしていきたいと思います。フォーラム計画書の検討に関しては以上です。

次に、F7-5 は、PONPO から東大に納める報告書のベースになるものと考えてもらえればいいかなと思っています。今まとめてもらっているところで、もう少しこれを充実していきますということで、まだできていないということでしたので、紹介だけに留めたいと思います。

(竹中) すぐ直ると思うのですけれども、4 ページの開催日のところが、全部 6 月 8 日になっています。

—— これは正確にはいつなのでしたっけ。

(木村) 隔週の土曜です。せっかくですから確認をしておきましょうか。

—— 3 回目が 6 月 22 日で、4 回目が 7 月 6 日で、5 回目が 7 月 20 日です。

(木村) シンポジウムは 1 ヶ月くらいおいてやろうと。これは武田ホールを今考えています。

3. フォーラム参加者決定に関する検討

(木村) ということで、検討としては以上になります。最後に少し時間がありますけれども、フォーラム参加者決定に関する検討ということに関して、少し話をしたいと思いません。

最初にも言いましたけれども、専門家のほうは20名を超える応募があったので、そこから10名選べばいい話ですけども、市民のほうはやや足りない。見込みと逆の結果が出てきて。それもあって、再来年度は3日くらいにしないといけないのかな、と思ったのですけれども。

—— そうか。やはり5日間拘束されるというのが大きいのかな。

(木村) それが大いなのか。あとは、まだネット公開もされていない情報なので、そういうのを見ても分からないと。

—— ちょっと難しそうと思ったのかもしれないですね。

(木村) そういうのもあるのかもしれない。

来年は、こういうことをやりましたみたいなものが出せるし、もう少し華やかなものを作って、最後にシンポジウムもこんなふうにできましたとか。写真・映像に関しても、出せるものは出して、雰囲気が分かるようにするとか、少しそういうものもつけながらやる必要があるかなとは思っているのですけれども。

—— (人数が) 足りない部分はどうするのですか。

(木村) そこを検討しておかないといけないと思います。私の考えとしては、10名にしたいなと思っているのですね。応募が、先週の終わりの段階で7名。1月いっぱい応募なので、何名までここが上がってくるか。10名まで上がれば問題ないのですけれども。だから、どこまで上がるか次第です。

7名だったら、まあ、7名にはもう参加してもらって、7名の分布を見て、足りない層のところから3名をピックアップして、こちらでお願いをしていくということをやろうかなとは思っています。

—— それはアンケートに答えてくれた方の中からですか。

(木村) いえ、それは誰が答えたかわからないので。

なので、そのときには元気ネットさんのコネクションを使っていただいて、少し追加してもらい可能性があるのですが、よろしく願いいたします。

—— 推薦したいな、と思う人がいるのだけれども。

(木村) ふたを開けてみてにはなるのですけれども、足りないときには、属性を見て、そういう人たちをお願いをして、10人という線は確保したい。そういう方向でいきましょう。

今回は結構ガチガチにして、補償にも対応できるように作りこんだけれども、まあそういうものは必要にしても、次年度は、もう少し応募するところで工夫をする必要があるという教訓を得たということにしましょう。

まあ、まだ分からないですけどね。ふたを開けていないので分からないのだけれども、もし足りなかった場合にはそういうことをやることにしましょう。そういうことが起こりうるということで、次年度には、募集時からもう少し情報が出せるような体制をとるということでしょうか。そんなことでよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

4. その他

(木村) それでは、最後に今後の予定の確認をしていきたいと思います。

次回第8回は、2月14日(木)です。次回は予備フォーラムを実施するというようにしたいと思います。スケジュールは先ほどのお話の中でありましたので、その通りでいきたいと思います。

第9回は、2月19日(火)15:00~18:00です。時間がいつもと違いますので、ご注意ください。場所は根津の会議室です。このときにはフォーラムの応募書類が一式届いてくるはずですので、これを基にフォーラムの参加者を確定するということになります。そのとき次第によっては、今言ったように、募集の追加をお願いするということになるかもしれませんので、そのときはよろしく願いします。

それと、第3回の業務推進全体会合が2月20日(水)15:00~18:00にあります。場所は工学部12号館の2階の会議室です。

2月末日で再委託としての活動は終了になりますので、それまでにある程度の報告書をまとめて、東大に納品ということになると思います。今のペースで行けば大丈夫かな、と思っています。

さらに、第4回の業務推進全体会合が3月22日(金)9:00~12:00にあります。これも場所は東大の工学部12号館の会議室です。朝早いのですが、ご協力をお願いいたします。このときには全体の報告書が出てくる予定で、その全体の報告書についてご説明、確

認みたいなことをやる回になると思います。

今後のスケジュールについて、何かございますか。よろしいでしょうか。それでは、今日は時間ぴったりに終わりにすることができました。どうもありがとうございました。

以上